



## 統計データによる現状分析

2024年8月26日

# 人口に関する統計データについて

# 人口の概要

## 前回推計よりも早く人口減少が進行しています

### 人口の概要

#### ■ 総人口の推移と推計

- 前回（2019年）の推計よりも早く人口減少が進む見込みとなっています。
- その要因は、出生数が減少し、死亡数が増加していること、転出者数が減少していないことにあります。

#### ■ 自然増減（出生、死亡）

- 出生率は改善し目標を上回っています。また、有配偶率（配偶者のいる割合）も2020年は上昇しています。
- 一方、特に24～39歳の女性の人口減少が進行していることから、出生数は減少しています。
- 死亡数は80歳以上人口の増加に伴い増加しています。

#### ■ 社会増減（転入、転出）

- 日本人についてみると、ほぼ転入と転出は同規模で推移しています。
- 外国人については、新型コロナの影響で、2021年、2022年で転入が減少した後、2023年は反動で増加しています。
- 長期的な人口移動をみると、男性、女性とも、大学入学で流入し、卒業後、就職、結婚等で流出する傾向が続いています。
- 60歳以上の層では、転入者が転出者を上回って推移しています。

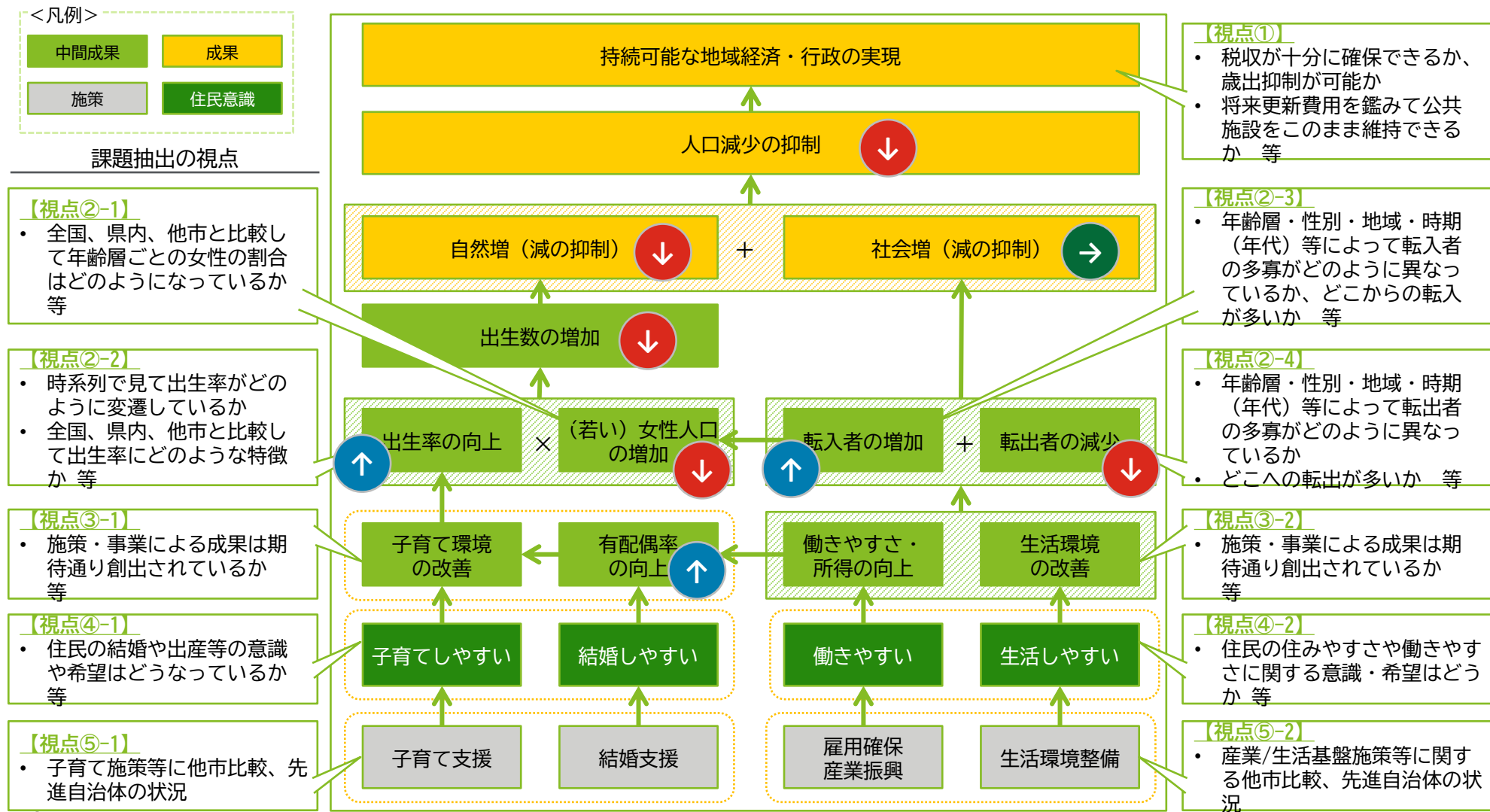
#### ■ その他

- 産業の構造などに大きな変化は見受けられず、医療・福祉、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業で従事者数が多くなっています。

# 人口減少の抑制と課題抽出の視点

## 人口減少の抑制に向けたロジックは次のとおりです

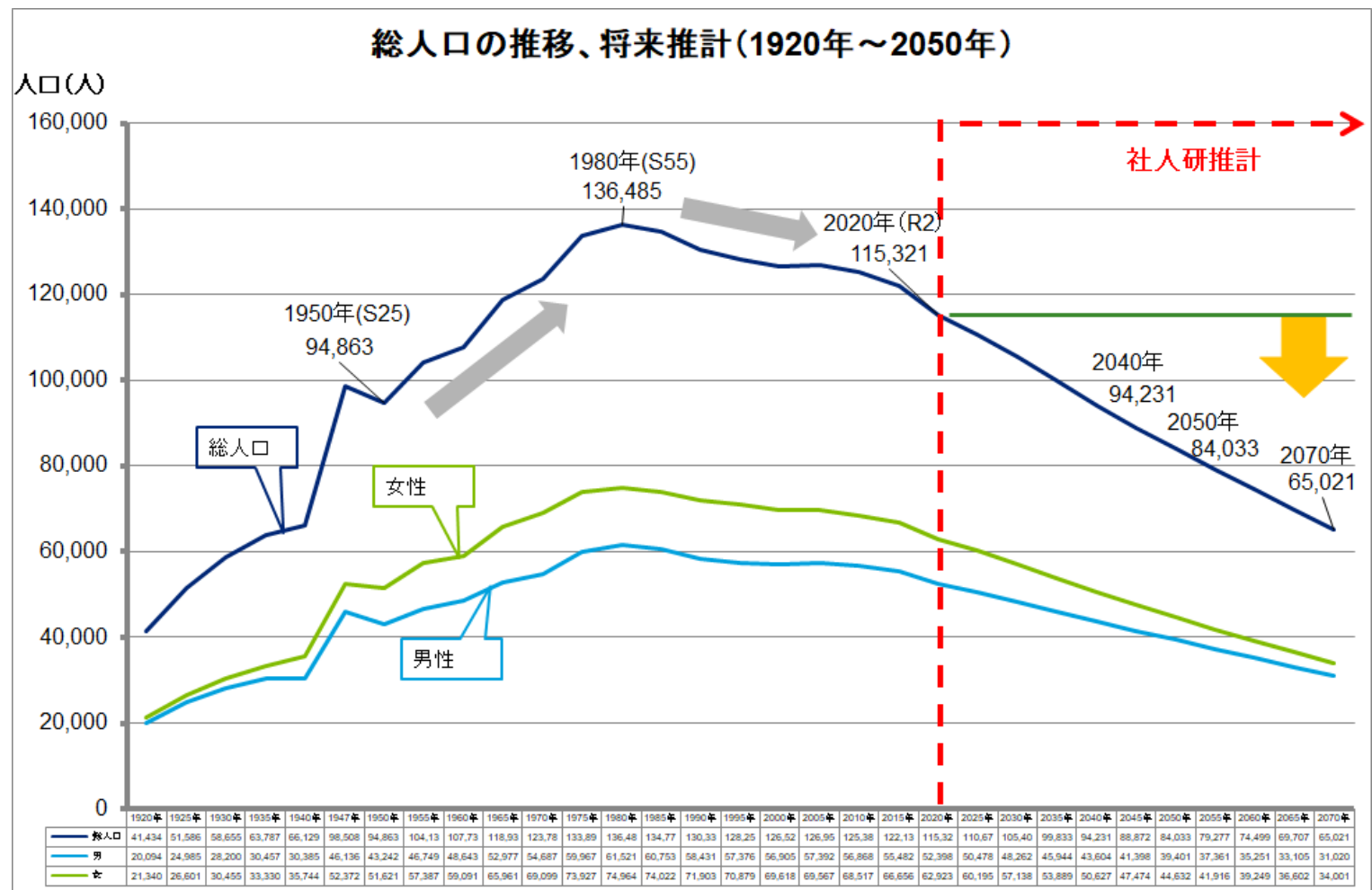
### 仮説ロジックと課題抽出の視点



# 総人口の推移、将来推計

総人口は1980年をピークに減少し今後もこの傾向は続くことが見込まれます

## 総人口の推移、将来推計



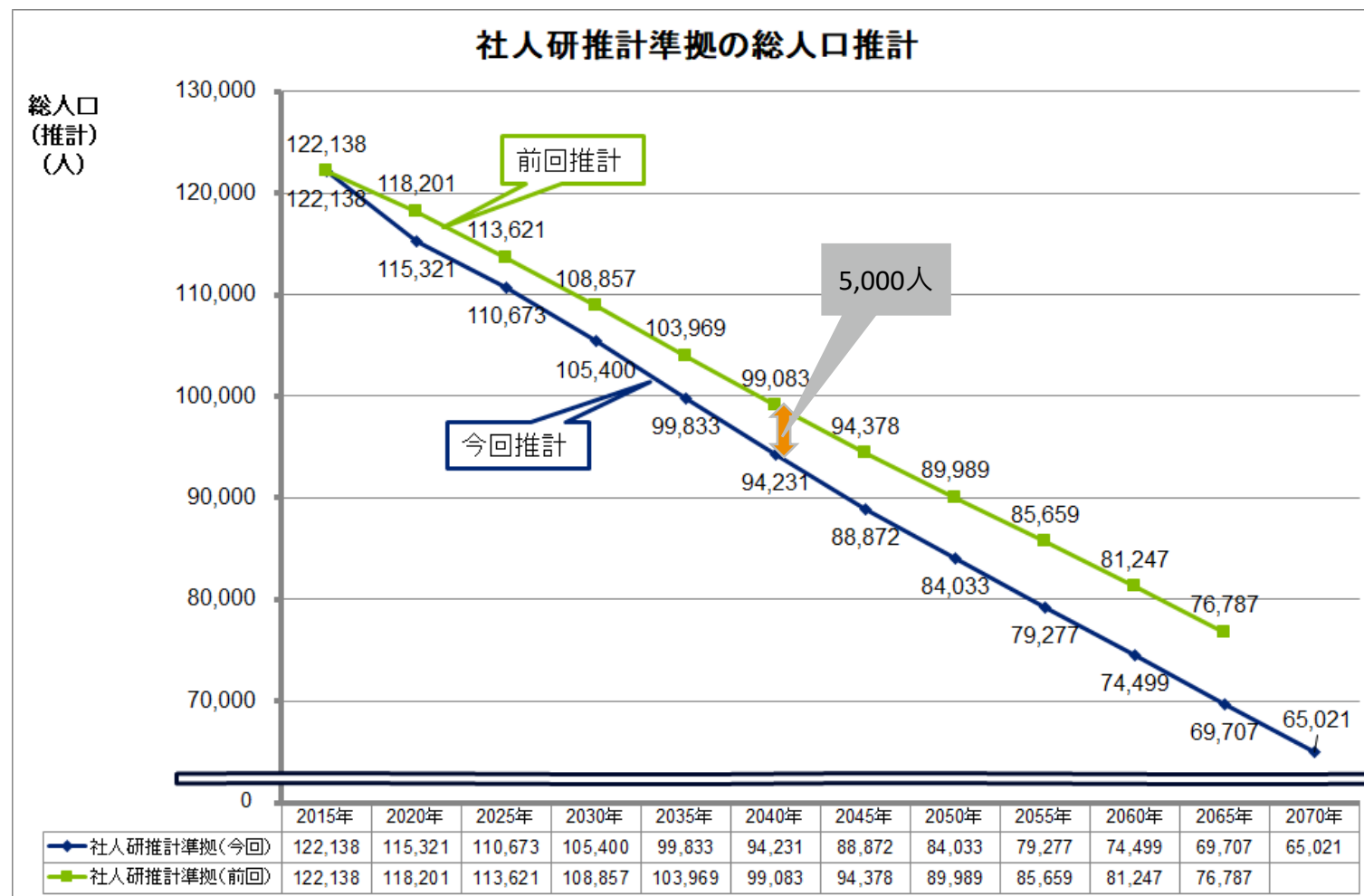
■ 本市の総人口の推移を見ると、1950年から1980年までは増加していますが、1980年以降減少し、今後も減少することが見込まれています。男女別で見ても、ほぼ同様の傾向が見られます。

出所：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

# 将来推計の比較

## 前回推計と比較し人口減少が拡大しています

### 将来推計の比較



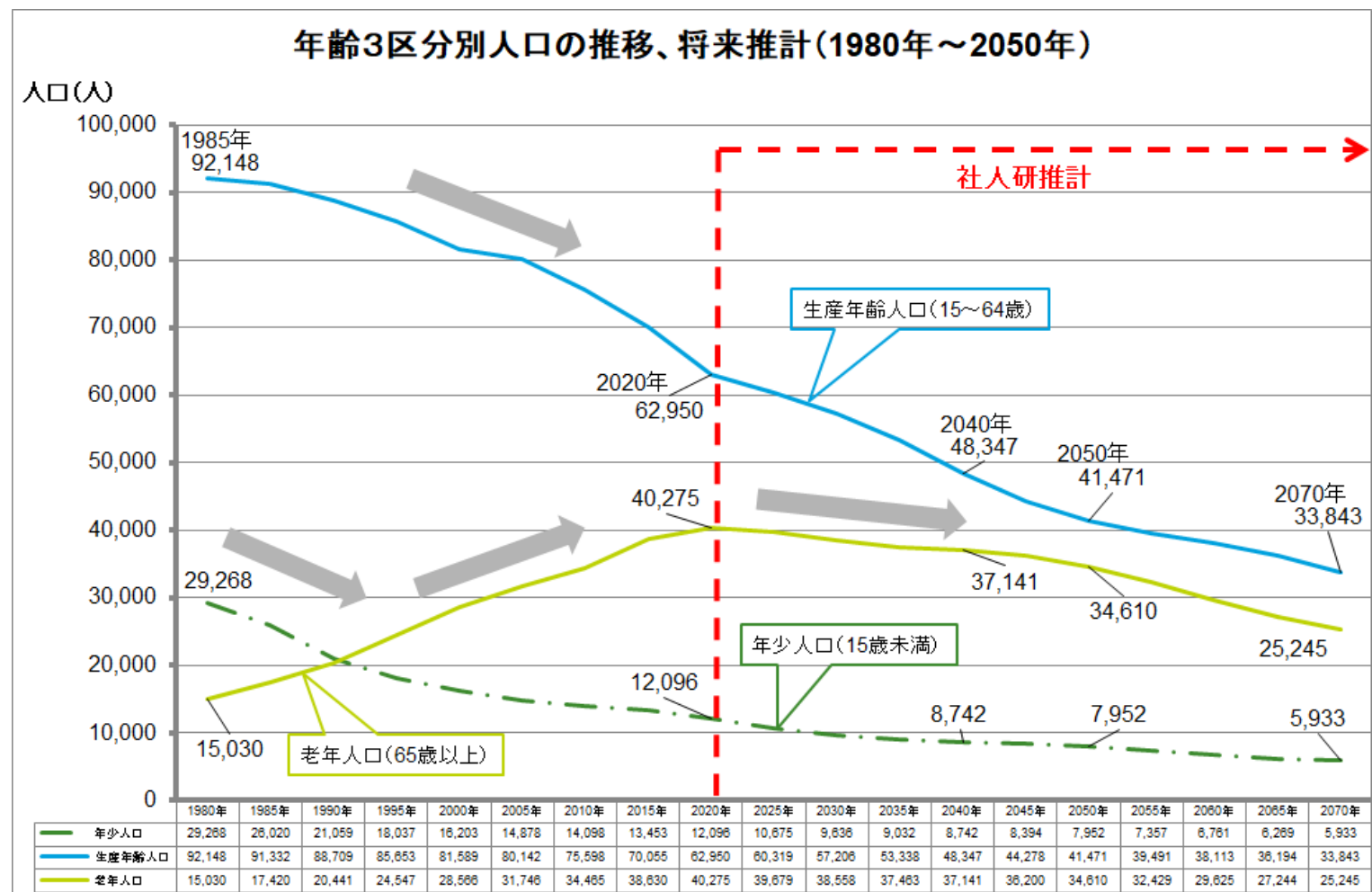
- 社人研推計に関しては、2015年国勢調査を元にした推計から2020年の国勢調査を元にした推計は2040年時点で約5,000人減少する見込みとなっています。

出所：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

# 年齢3区分別人口の推移、将来推計

年少及び生産年齢人口が減少する中、老年人口は微減傾向が見込まれます

## 年齢3区分別人口の推移、将来推計



■ 生産年齢人口(15歳～64歳)は、減少傾向が続いています。

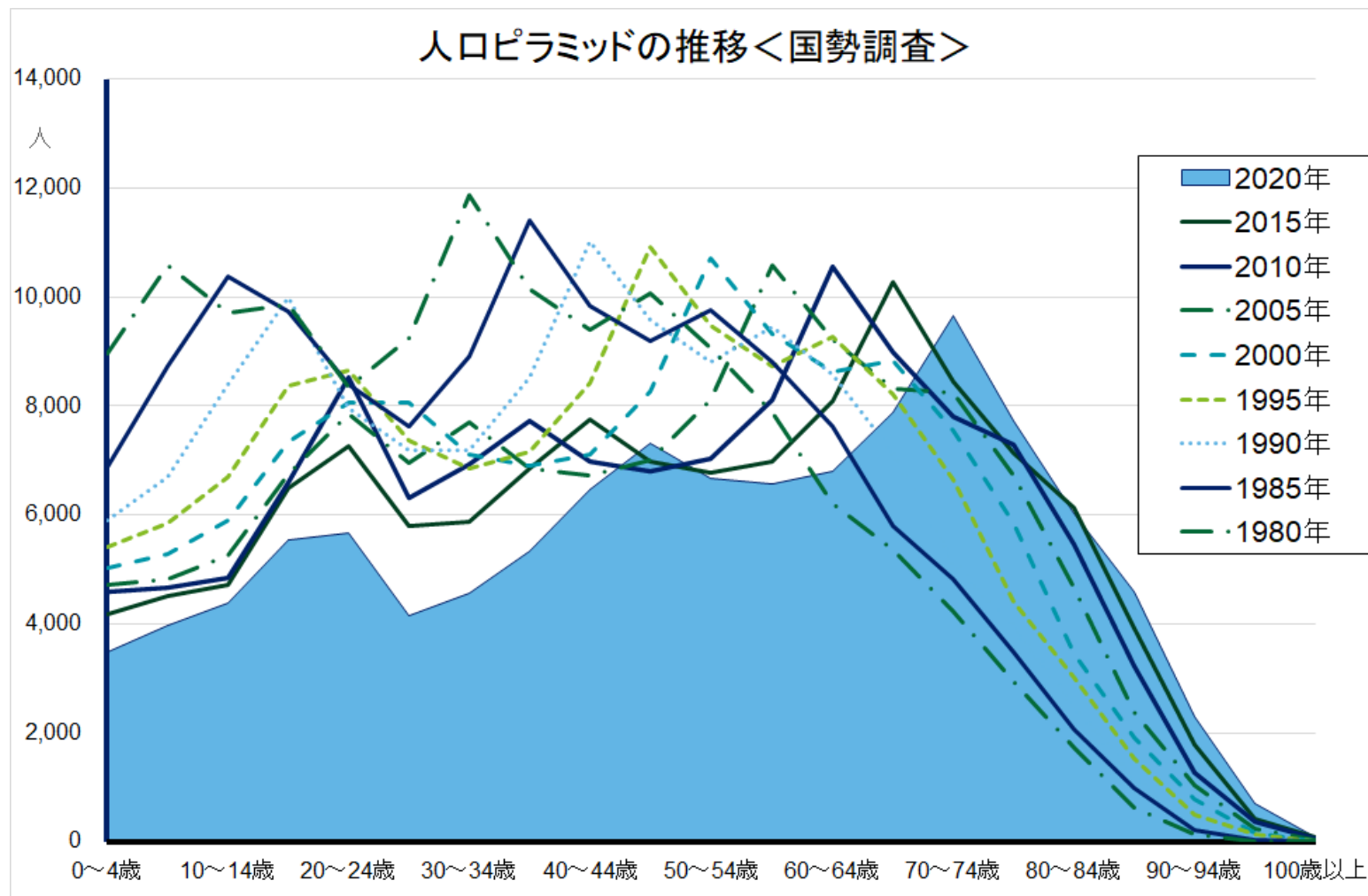
■ 老年人口(65歳以上)は、2020年まで増加した後、横ばい、その後微減傾向となることが見込まれています。年少人口(15歳未満)は、減少を続けています。

出所：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

# 人口ピラミッドの推移

大学生の流入で20～24歳は減少幅が小さく、若年層では減少が大きい

## 人口ピラミッドの推移



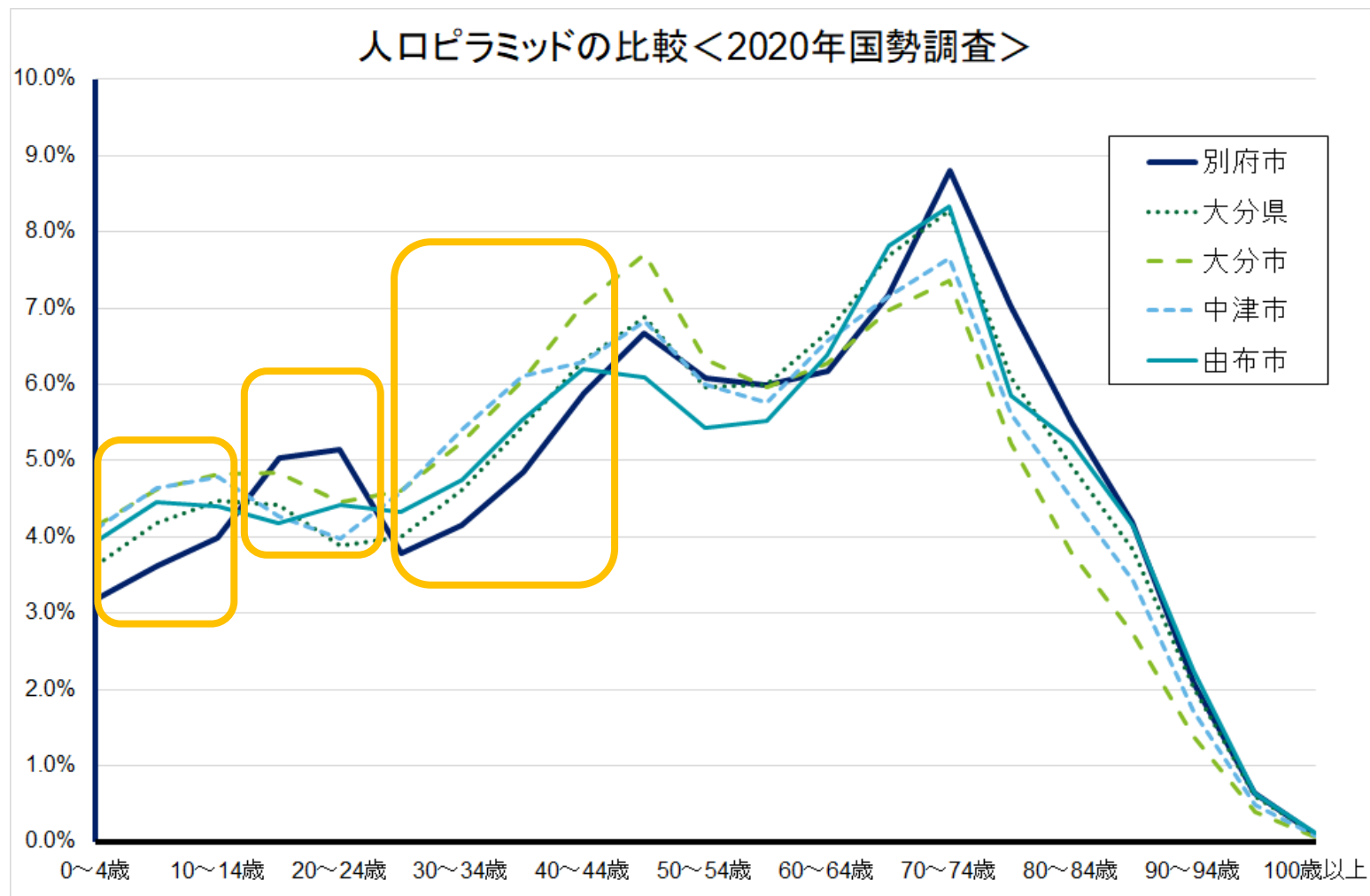
- 20～24歳層では、大学生の流入により、2015年までほかの若年層に比べ、減少幅が小さくなっていますが、2020年は新型コロナの影響もあり、減少しています。
- いわゆる団塊の世代の層が最も多い状況となっており、2020年では75～79歳の層が最も多くなっています。

出所：国勢調査

# 人口ピラミッドの比較

大学生世代が他市より多く、子育て世代で他市より少なくなっています

## 人口ピラミッドの比較



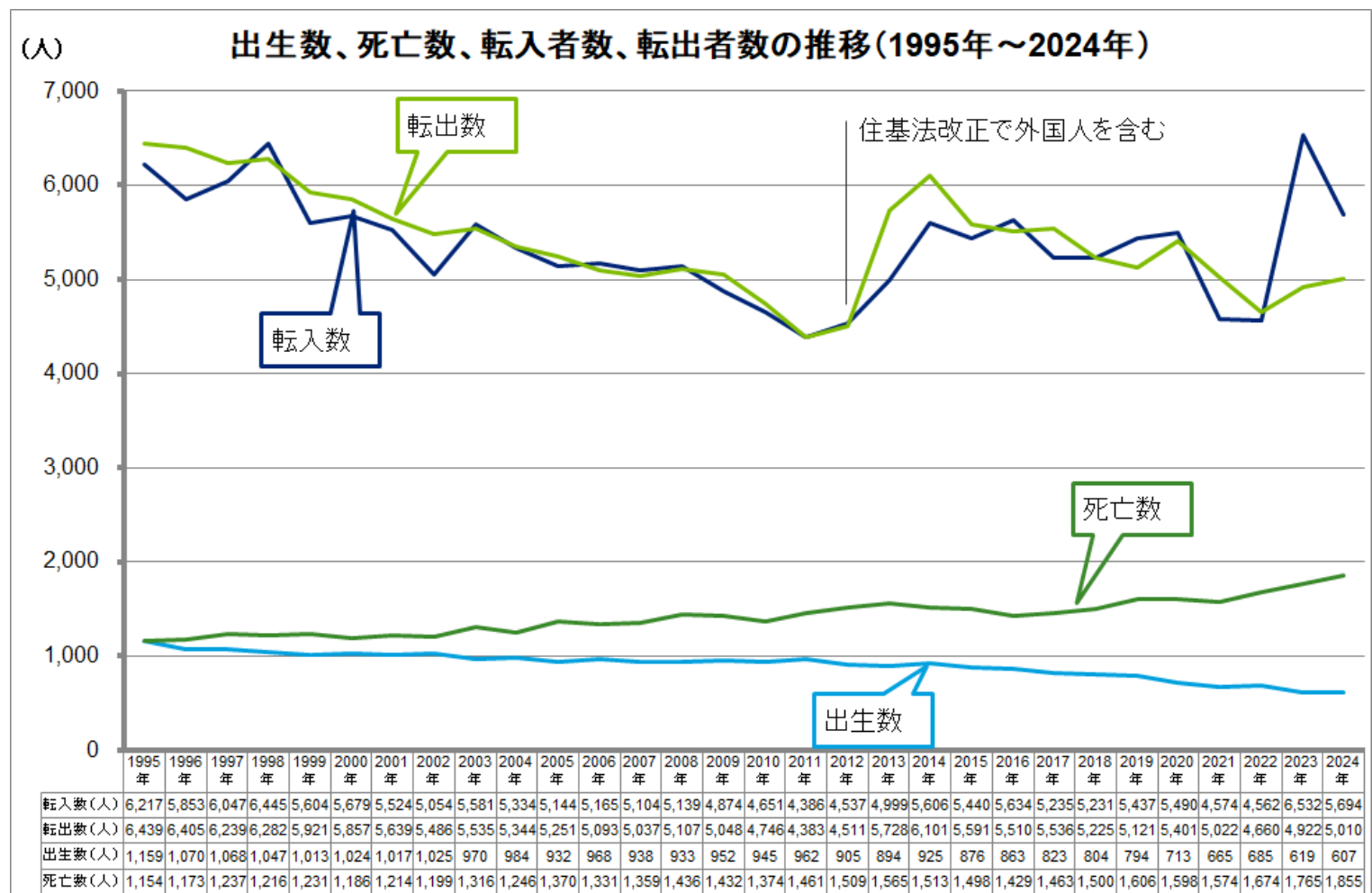
- 大学生の流入により、15~24歳層で他市よりも割合が高くなっています。
- 一方、14歳以下、30~44歳層の子育て世代で他市よりも割合が低くなっています。
- 75~84歳層で他市よりも割合が高くなっています。

出所：国勢調査

# 出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移

出生数は減少し、死亡数は増加しており、転入と転出はほぼ拮抗しています

## 出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移



- 出生数は2011年ごろまで微減傾向にありましたが、その後減少幅が大きくなっています。
- 死亡数は、高齢者人口の増加に伴い、一貫して増加しています。
- その結果、近年では年間約1,000人減少しています。
- 転入、転出は2011年ごろまで減少傾向にありましたが、外国人を含むこととなったため、大きく増減する状況です。

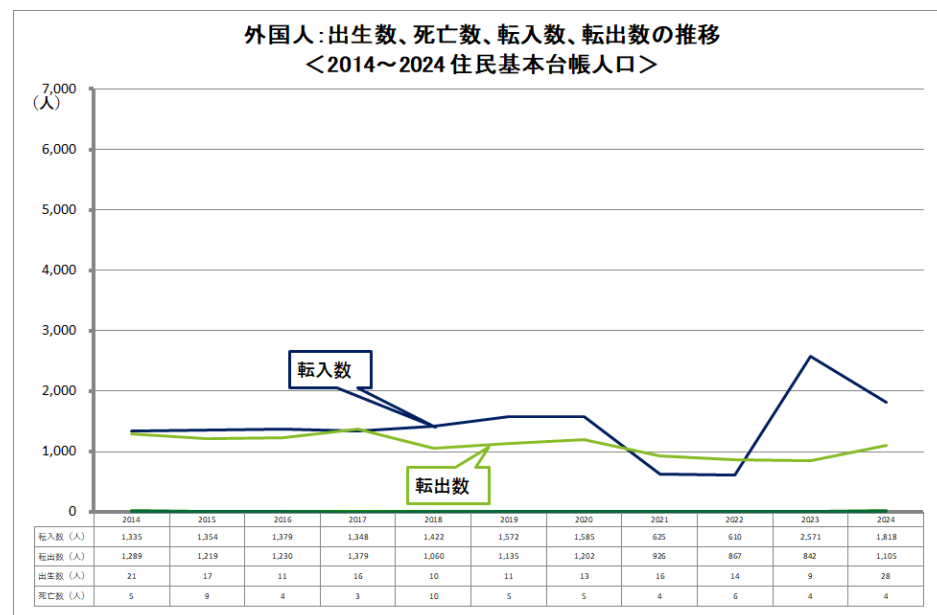
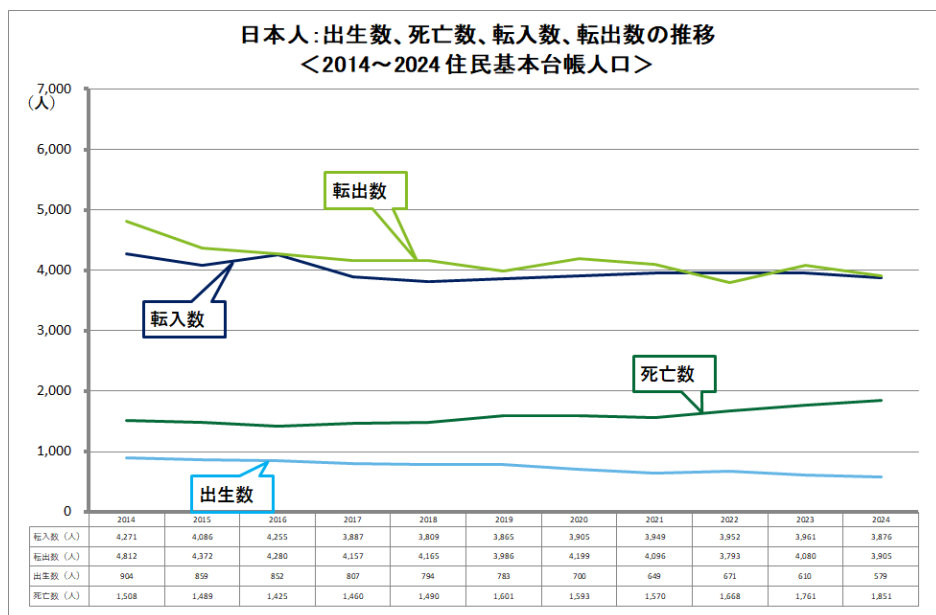
出所：住民基本台帳

# 出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移

## 2020年以降の転入、転出の増減は主に外国人によるものといえます

### 出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移（日本人、外国人）

- 日本人の転入者数、転出者数は、3,900人から4,100人程度で推移しています。
- 外国人については、2020年まで転入者数が増加していましたが、新型コロナの影響により、2021年、2022年は激減し、2023年には反動で大きく増加しています。転出者数は大きな増減はありません。
- したがって、2020年以降の転入者数、転出者数の増減は、主に外国人によるものといえます。

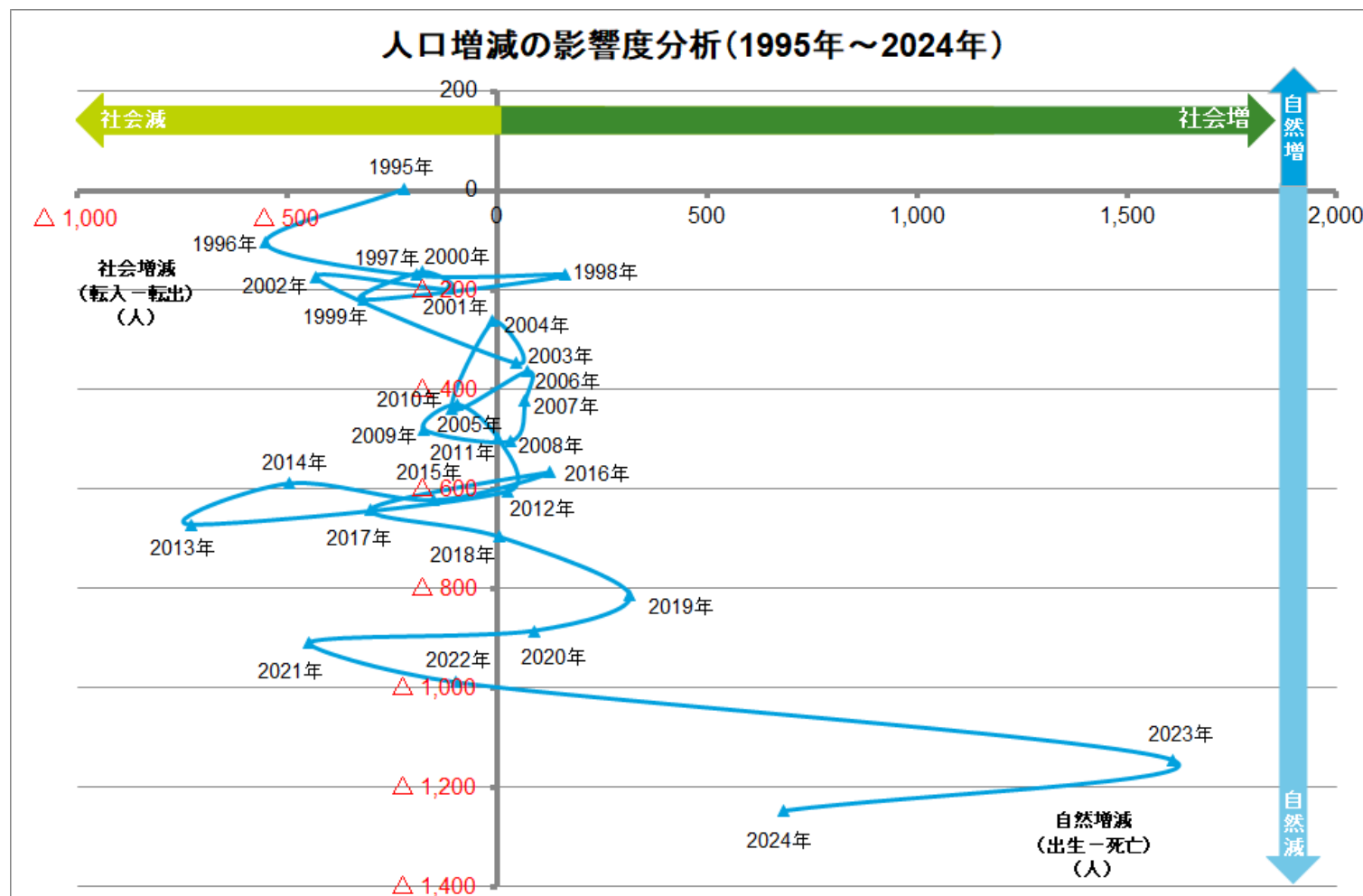


出所：住民基本台帳

# 人口増減の影響度分析

自然減の規模が拡大しており、社会増減は年により異なっています

## 人口増減の影響度分析



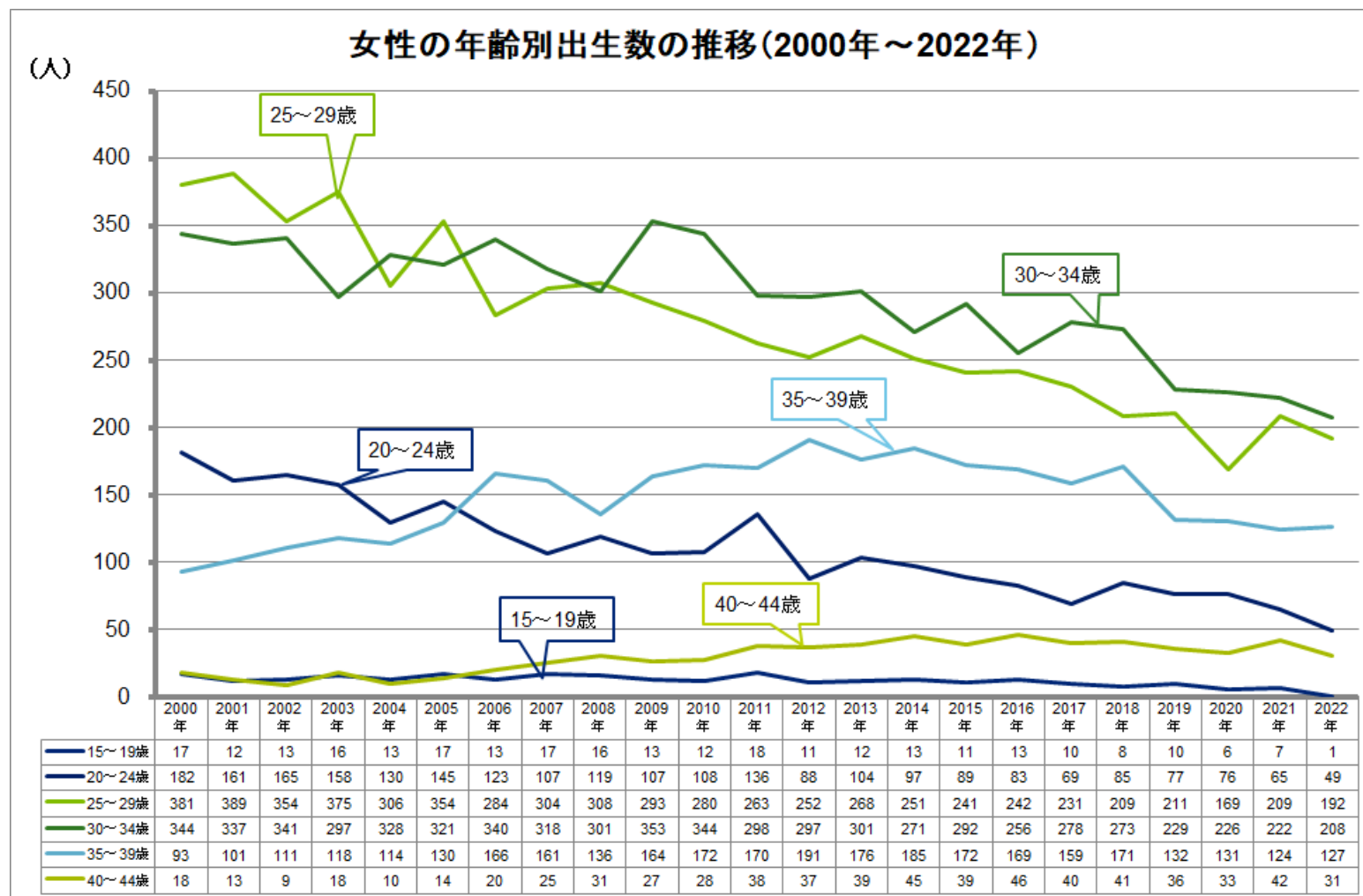
- 1996年以降、死亡数を出生数が上回る自然減の状況が続いており、その規模が拡大しています。
- 転入数、転出数はその差が小さい状況が続いていましたが、2021年ごろ新型コロナウイルスの影響による転入者が減少していますが、2023年には大きく転入者が増加しています。

出所：住民基本台帳

# 女性の年齢別出生数の推移

34歳以下の女性では出生数の減少傾向が続き、他の層も減少しています

## 女性の年齢別出生数の推移



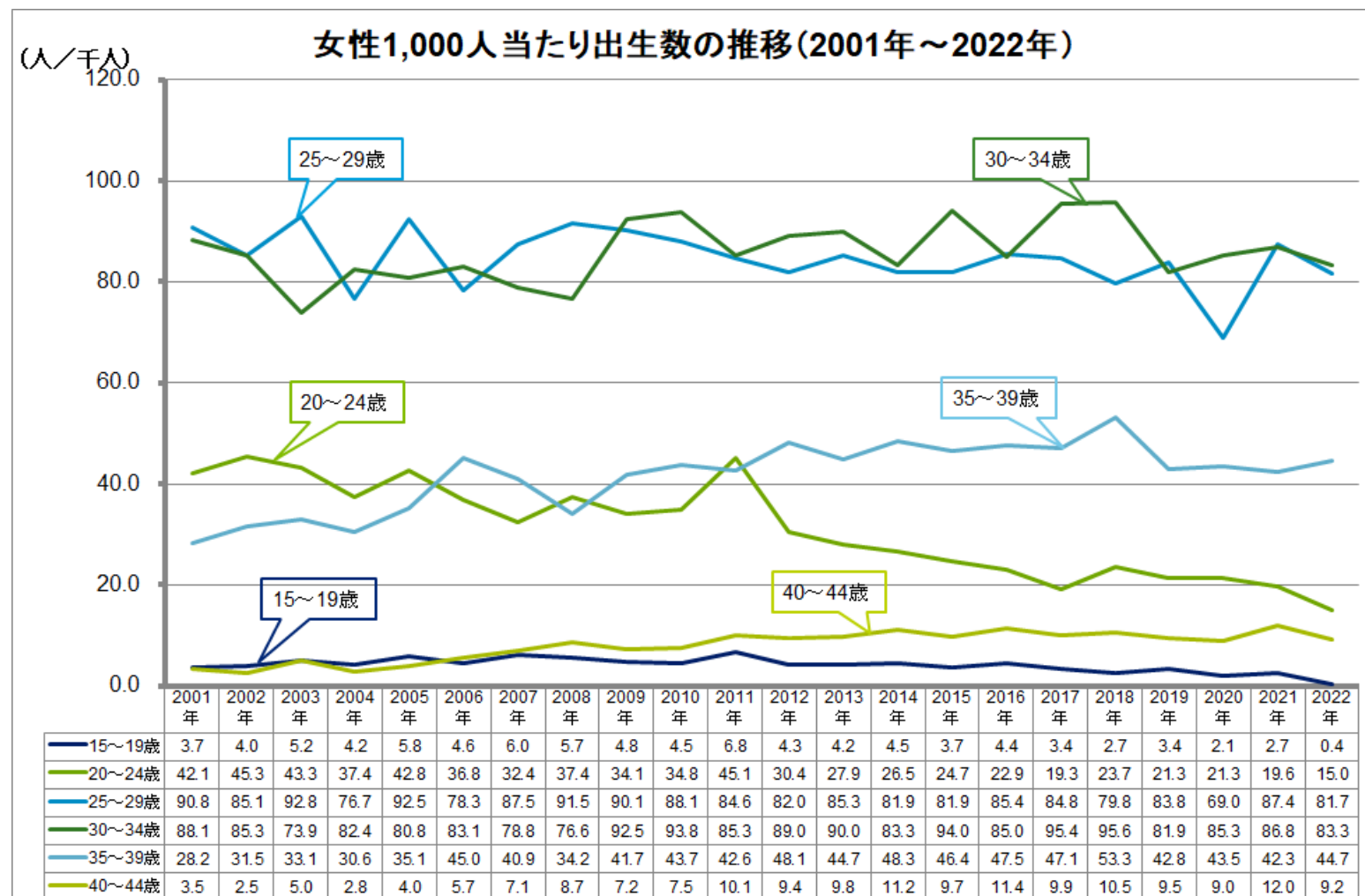
- 出生数を母（女性）の年齢別にみると、34歳以下の層で減少傾向が続いています。
- 一方35歳以上では、2014年ごろまで増加傾向にありましたが、その後、横ばいから減少傾向にあります。これは、団塊ジュニア世代に該当するものと考えられます。

出所：人口動態調査

# 女性1,000人当たり出生数の推移

29歳以下ではやや低下傾向にあり、35歳以上では上昇傾向にあります

## 女性1,000人当たり出生数の推移



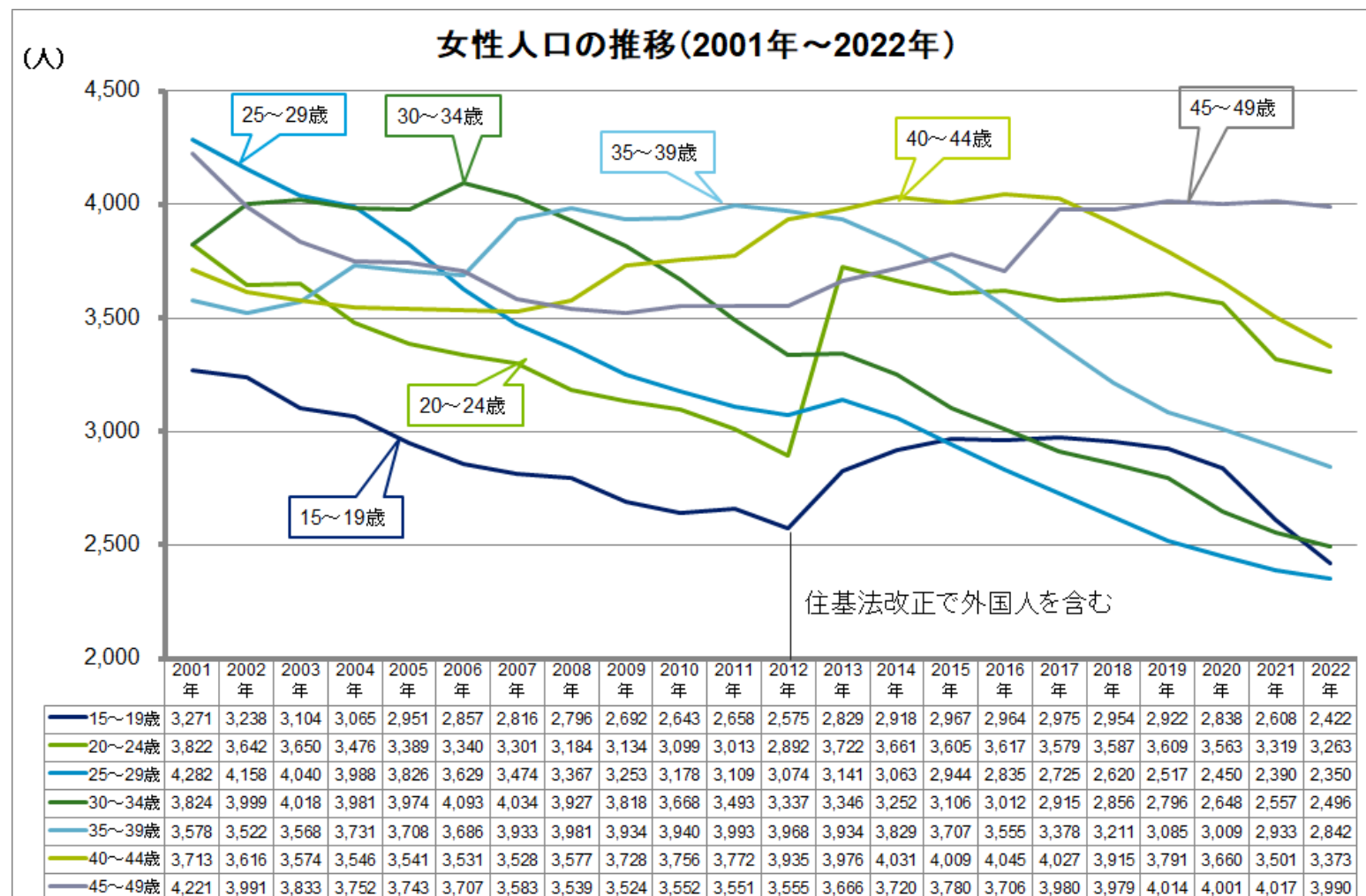
■ 女性1,000人当たりの出生数（出生率）の推移を見ると、35歳以上の層は上昇傾向になっているが、20歳代の層ではやや低下傾向にあります。

出所：住民基本台帳、人口動態調査

# 女性人口の推移

女性人口は、団塊ジュニアの世代をピークに減少傾向にあります

## 女性人口の推移



■ 女性人口の推移を見ると、団塊ジュニアの世代（1973年前後の生まれ）をピークに減少傾向にあります。

■ なお、15歳～24歳人口の2013年の大幅な増加は、住民基本台帳法の改正による外国人の影響と考えられます。

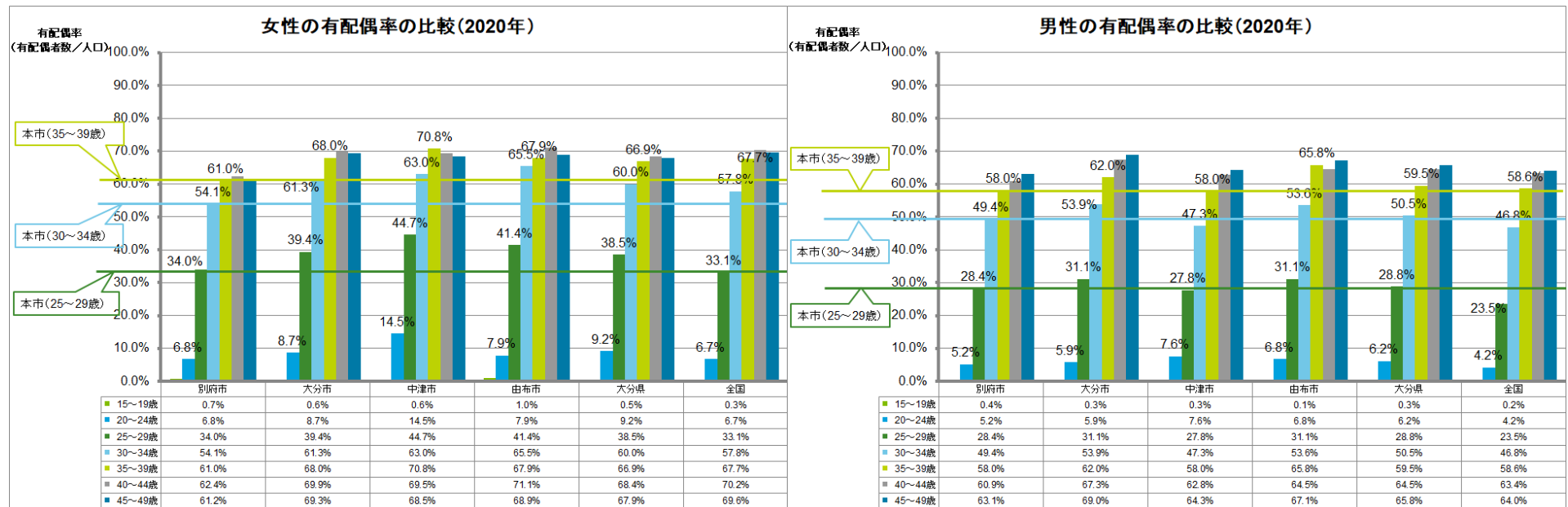
出所：住民基本台帳

# 男女の有配偶率の比較

男性では全国平均よりも高く、女性では30歳以上の層で低くなっています

## 男女の有配偶率の比較

- 有配偶率（配偶者を有する割合）は、女性の30歳以上で全国平均や近隣他市、大分県平均よりも低くなっています。
- 男性では、ほぼ大分県平均と同様であり、近隣他市とも差は少ないですが、35歳以上の層で大分市や由布市より低くなっています。



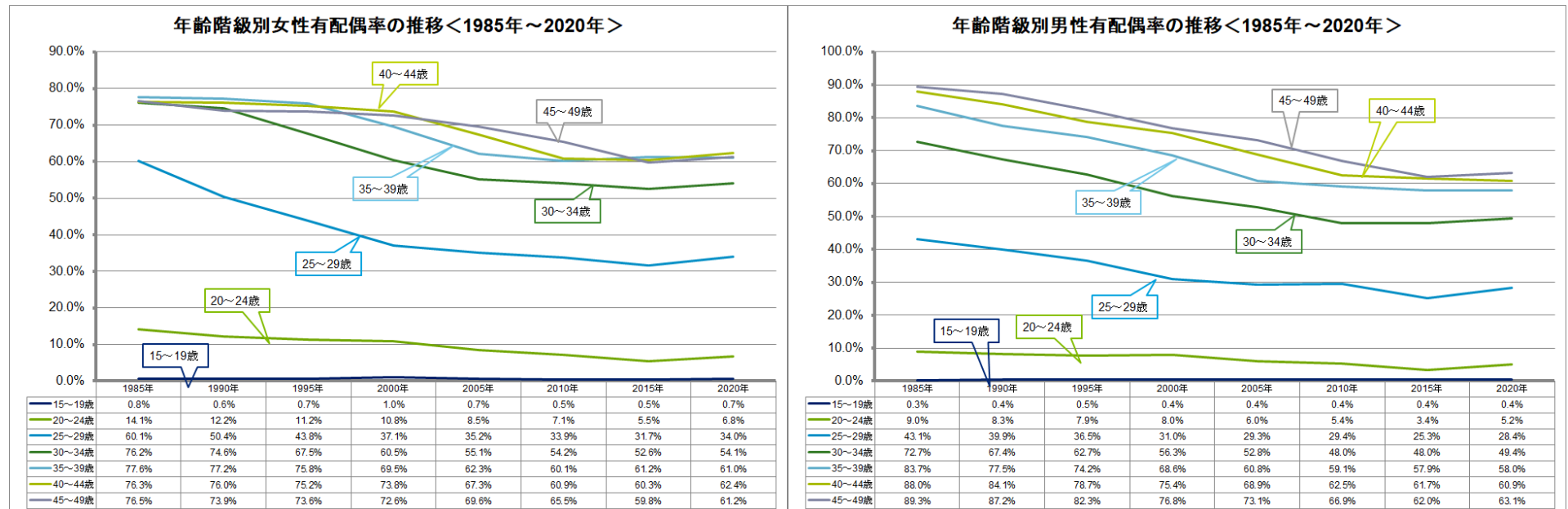
出所：国勢調査

# 男女の年齢別有配偶率の推移

## 有配偶率が、男女とも2020年に上昇に転じています

### 男女の年齢別有配偶率の推移

- 有配偶率の推移を男女別に見ると、2015年まで男女とも低下傾向にあり、特に女性は、25歳～34歳の層で大きく低下していましたが、2020年には上昇に転じています。



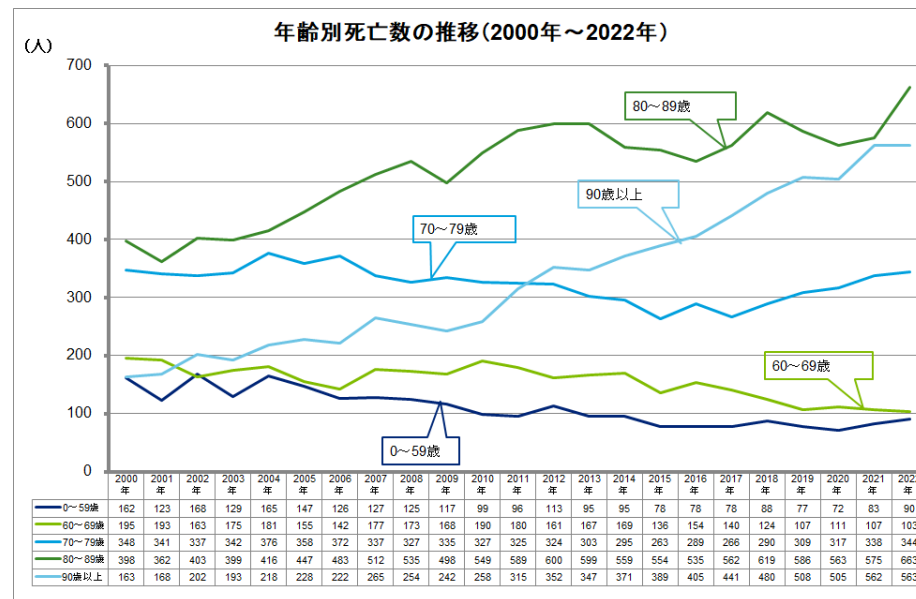
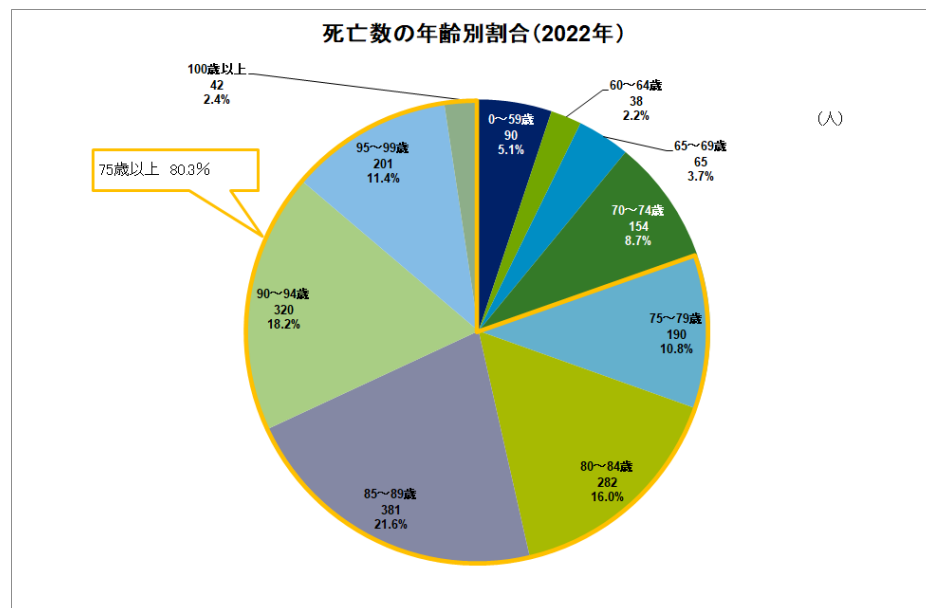
出所：国勢調査

# 死亡数の年齢別割合及び推移

死亡数は、高齢者人口の増加に伴い、特に75歳以上で増加しています

## 死亡数の年齢別割合及び推移

- 年齢別に死亡数の割合を見ると、75歳以上が全体の約8割を占めています。
- 近年の推移をみると、高齢者人口の増加に伴い、特に75歳以上で増加しています。

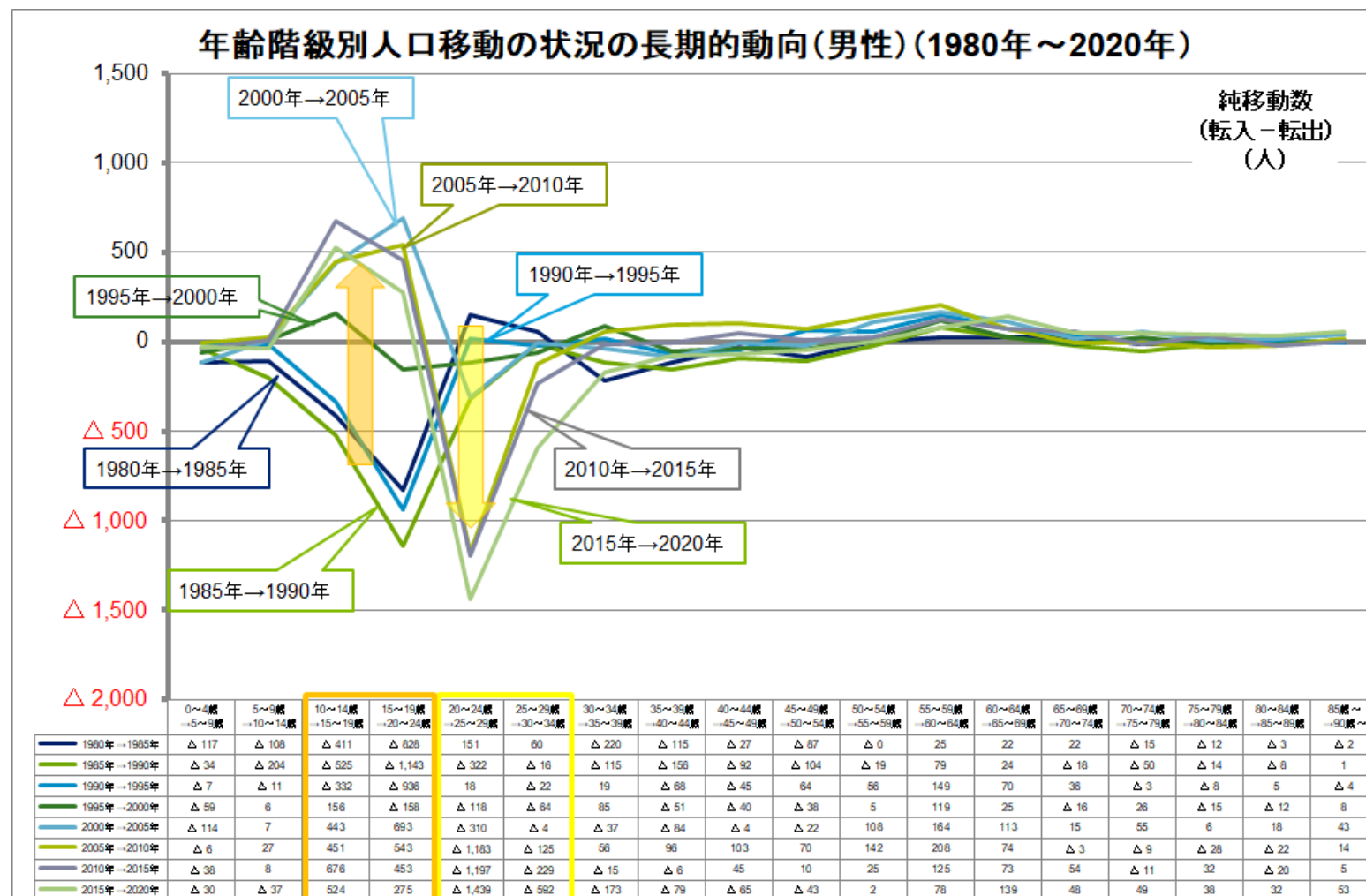


出所：人口動態調査

# 年齢階級別人口移動状況の長期的動向（男性）

男性は、現在、大学入学で流入し、卒業で流出する構造となっています

## 年齢階級別人口移動状況の長期的動向（男性）



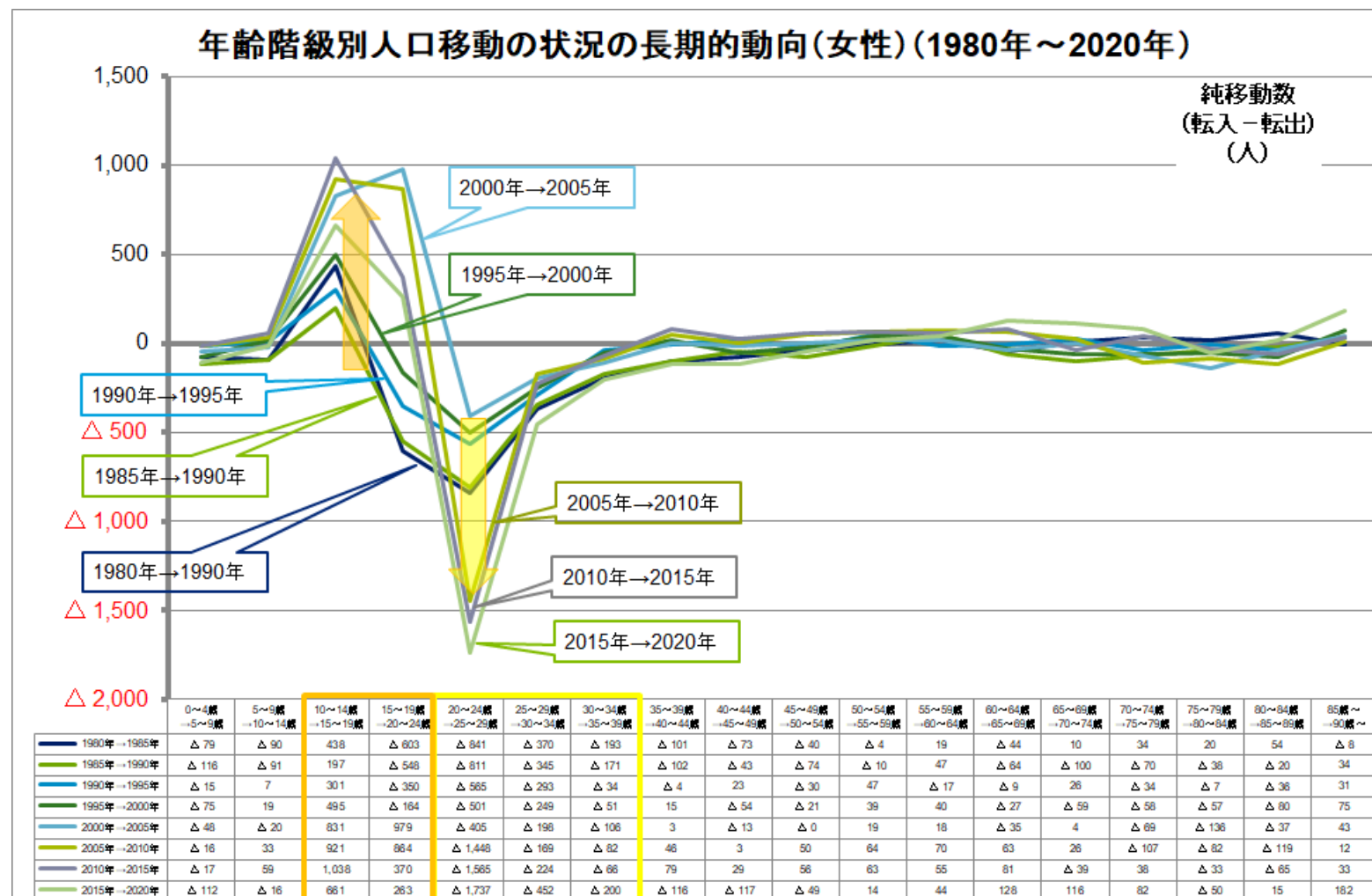
- 立命館アジア太平洋大学が開学する2000年までは、15～24歳の層で大きく流出していました。
- 2000年以降は、15～24歳で大きく流入し、25～34歳にかけて流出する構造となっています。
- 60歳以上で、流入超過となっています。

出所：住民基本台帳

# 年齢階級別人口移動状況の長期的動向（女性）

女性は、以前から大学入学で流入し、卒業後流出する構造となっています

## 年齢階級別人口移動状況の長期的動向（女性）



■ 女性は、大学入学時の15～24歳で大きく流入し、25～39歳にかけて流出する構造となっています。

■ 60歳以上で、流入超過となっています。

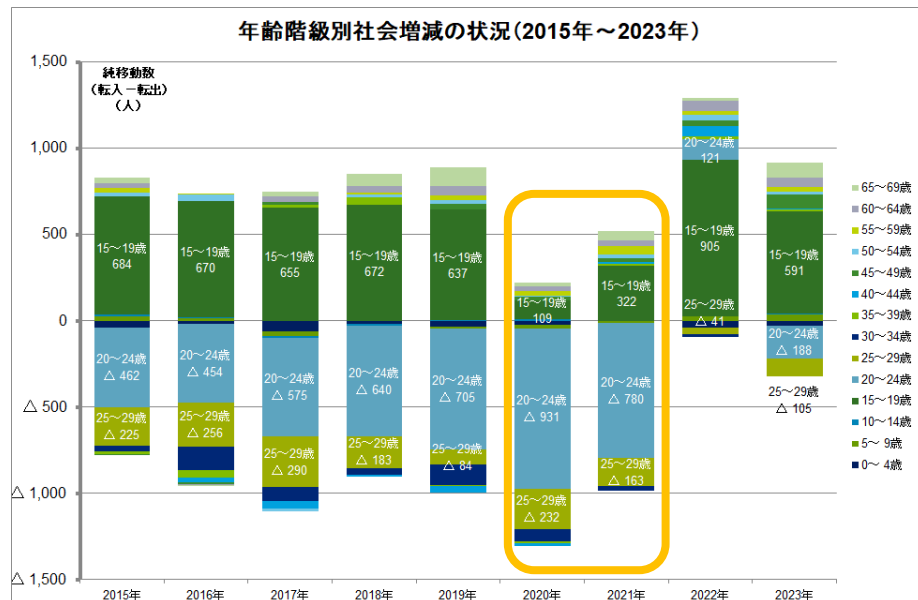
出所：住民基本台帳

# 5歳階級別社会増減の状況

2020年, 2021年は新型コロナによる影響を受け、転入者が大きく減っています

## 5歳階級別社会増減の状況

- コロナ前の2019年までの状況をみると、15～19歳の大学入学時で大きく転入超過となっているのに対し、20～24歳の大学卒業時で大きく転出超過となっています。また、0～4歳と25～34歳の層の子育て世代で転出超過となっています。  
一方、45歳以上で転入超過となっていました。
- コロナ期は特に15～19歳層で転入者の減少が見られます。
- 一方、2021年以後35歳以上で転入超過となっており、2022年からは5～14歳、30～34歳層でも転入超過となっています。



年齢別純移動者(転入-転出)数の状況

純移動者数

単位: 人

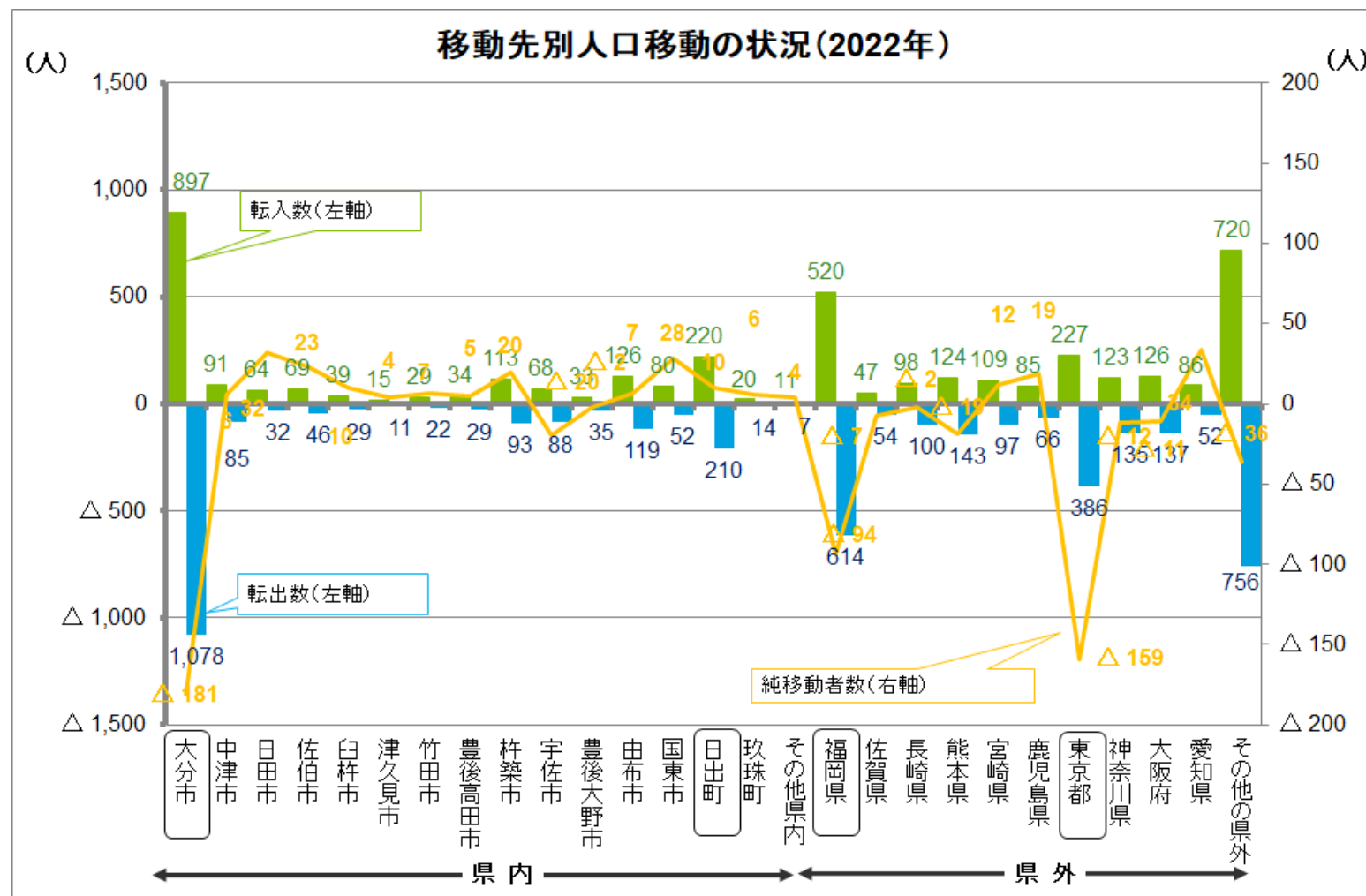
|        | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年   | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|
| 0～4歳   | △ 37  | △ 18  | △ 61  | △ 15  | △ 31  | △ 24    | △ 1   | △ 36  | △ 30  |
| 5～9歳   | 28    | 16    | △ 27  | △ 2   | △ 11  | △ 18    | △ 11  | 25    | 38    |
| 10～14歳 | 10    | 7     | △ 8   | △ 11  | 7     | 9       | △ 2   | 3     | 5     |
| 15～19歳 | 684   | 670   | 655   | 672   | 637   | 109     | 322   | 905   | 591   |
| 20～24歳 | △ 462 | △ 454 | △ 575 | △ 640 | △ 705 | △ 931   | △ 780 | 121   | △ 188 |
| 25～29歳 | △ 225 | △ 256 | △ 290 | △ 183 | △ 84  | △ 232   | △ 163 | △ 41  | △ 105 |
| 30～34歳 | △ 31  | △ 138 | △ 81  | △ 40  | △ 119 | △ 71    | △ 25  | △ 15  | 2     |
| 35～39歳 | △ 17  | △ 41  | 19    | 43    | △ 9   | △ 13    | 7     | 17    | 8     |
| 40～44歳 | △ 1   | △ 28  | △ 44  | △ 11  | △ 34  | △ 16    | 11    | 56    | 8     |
| 45～49歳 | △ 3   | △ 13  | 13    | 3     | 35    | 22      | 24    | 36    | 81    |
| 50～54歳 | 21    | 38    | △ 15  | 16    | 20    | 7       | 22    | 31    | 14    |
| 55～59歳 | 27    | 3     | 0     | 9     | 30    | 28      | 46    | 22    | 31    |
| 60～64歳 | 26    | △ 4   | 35    | 41    | 54    | 26      | 37    | 59    | 51    |
| 65～69歳 | 33    | △ 5   | 26    | 66    | 109   | 19      | 53    | 19    | 87    |
| 合計     | 53    | △ 223 | △ 353 | △ 52  | △ 101 | △ 1,085 | △ 460 | 1,202 | 593   |

出所: 大分県の人口推計年報

# 移動先別人口移動の状況

県内では大分市、県外では福岡県や東京都への転出者数が多くなっています

## 移動先別人口移動の状況



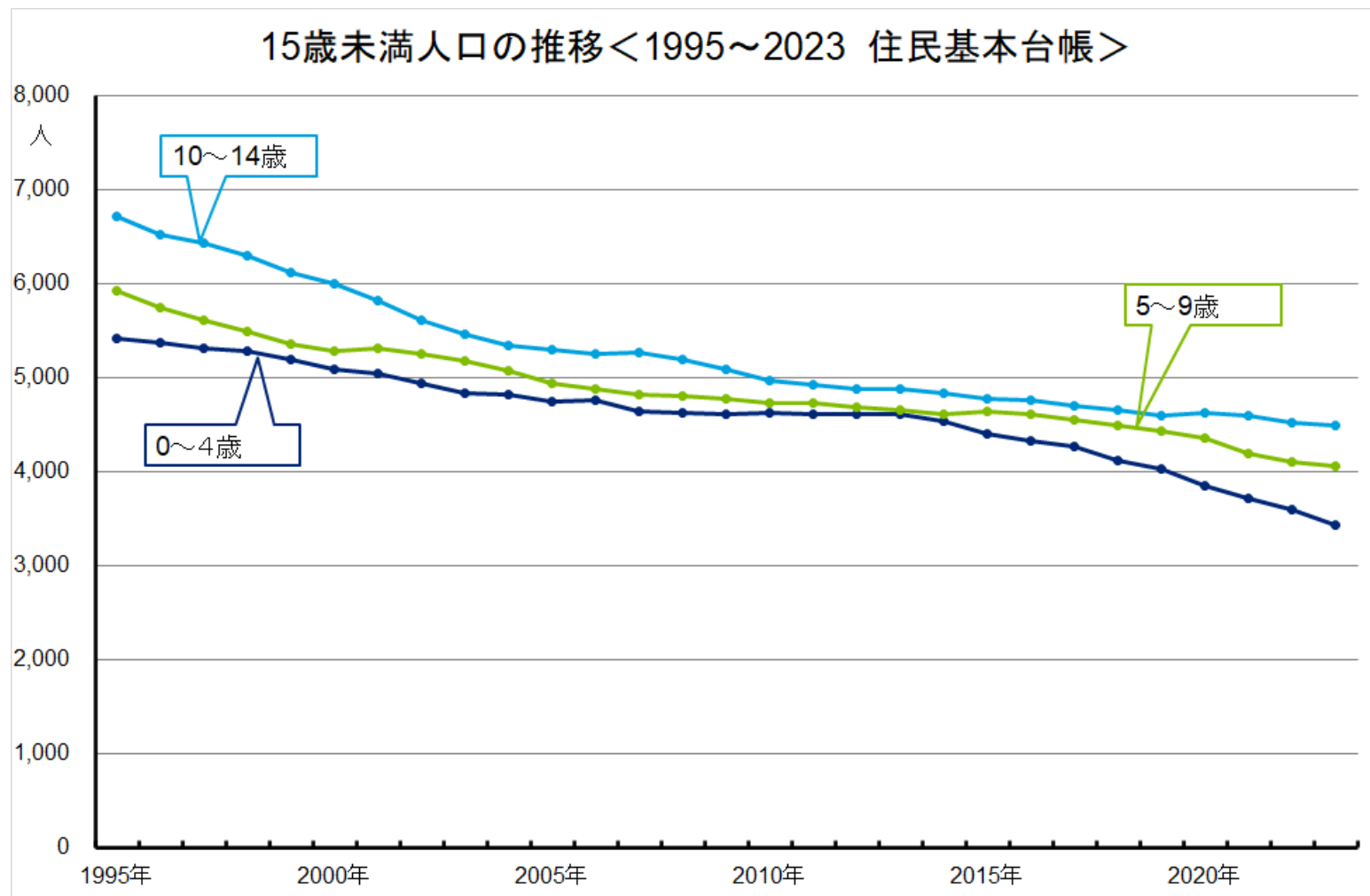
大分市、東京都、福岡県への転出超過が多い状況にあります。これは、2018年とほぼ変動ありません。

出所：大分県の人口推計年報

# 15歳未満人口の推移

0～4歳は2013年ごろから減少し、今後5～14歳も減少することが見込まれます

## 15歳未満人口の推移



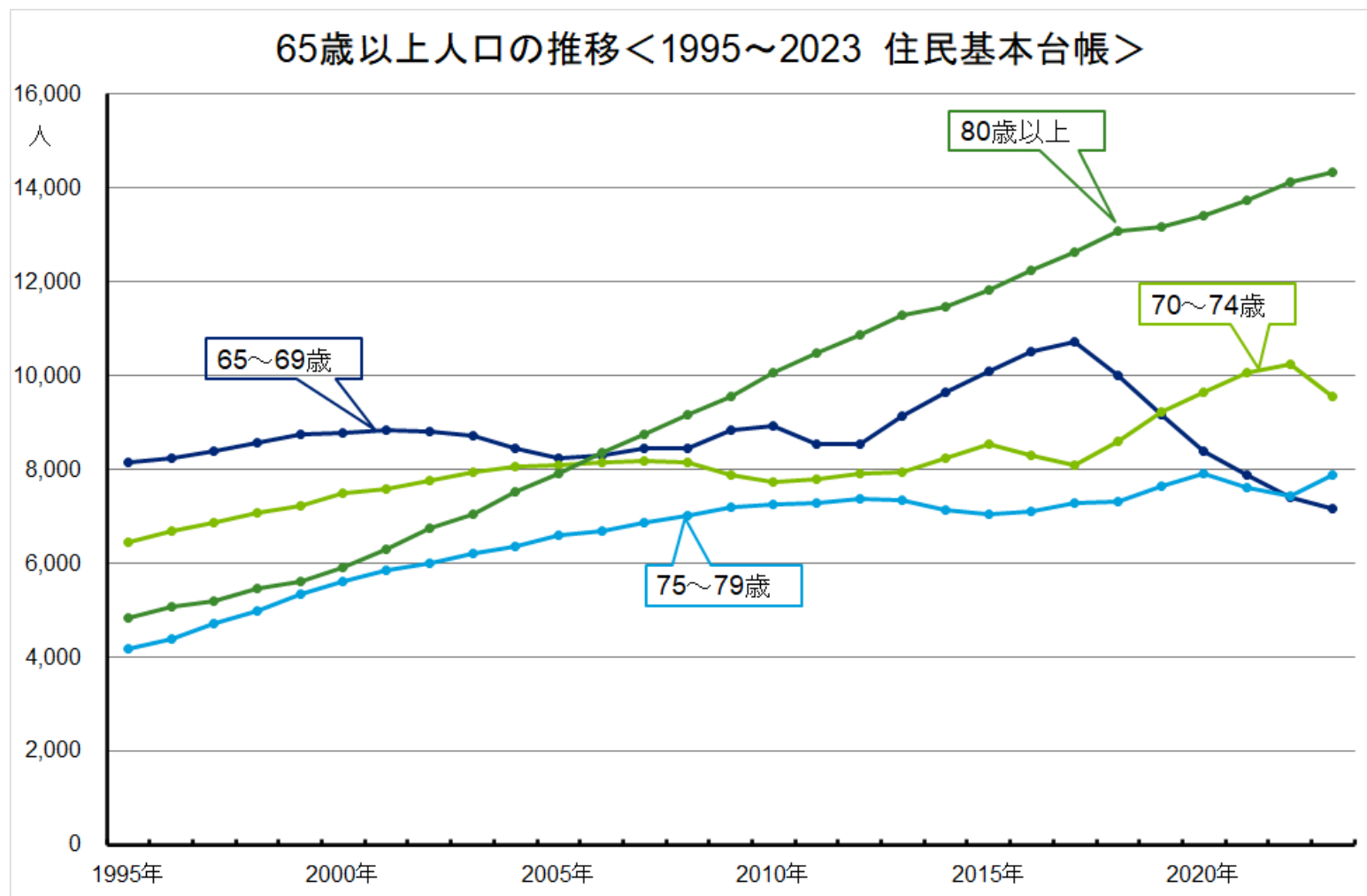
- 0～4歳人口が、2013年ごろから減少傾向が強まっています。
- 今後、5歳～14歳人口も減少することが見込まれます。

出所：住民基本台帳

# 65歳以上人口の推移

80歳以上は増加していますが、70～74歳は2022年のピークに減少しています

## 65歳以上人口の推移



■ 65～69歳人口は、2017年、70～74歳人口は2022年をピークに減少に転じており、今後、2027年ごろ75～79歳も減少に転じることが見込まれます。

■ 80歳以上人口は、一貫して増加しており、約30年間で3倍以上になっています。

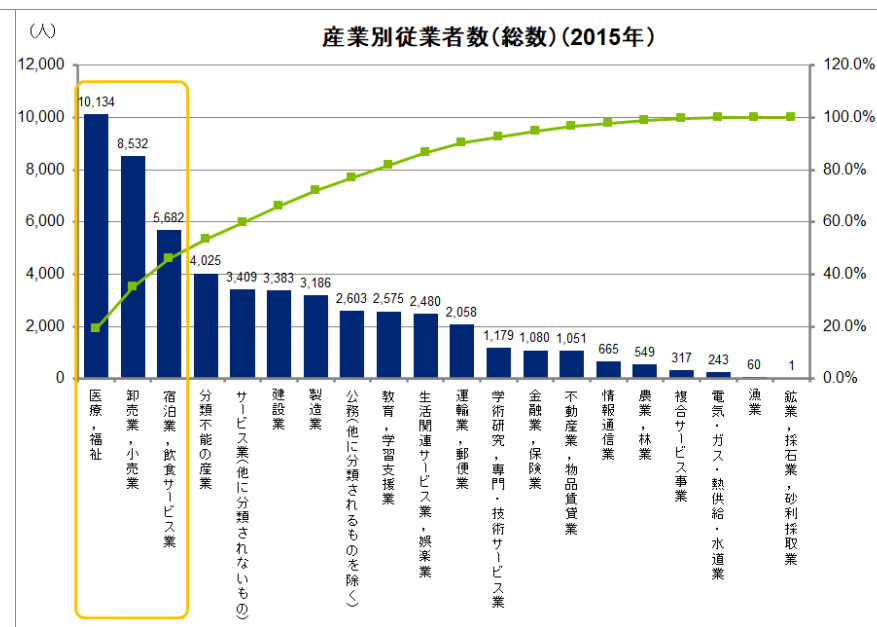
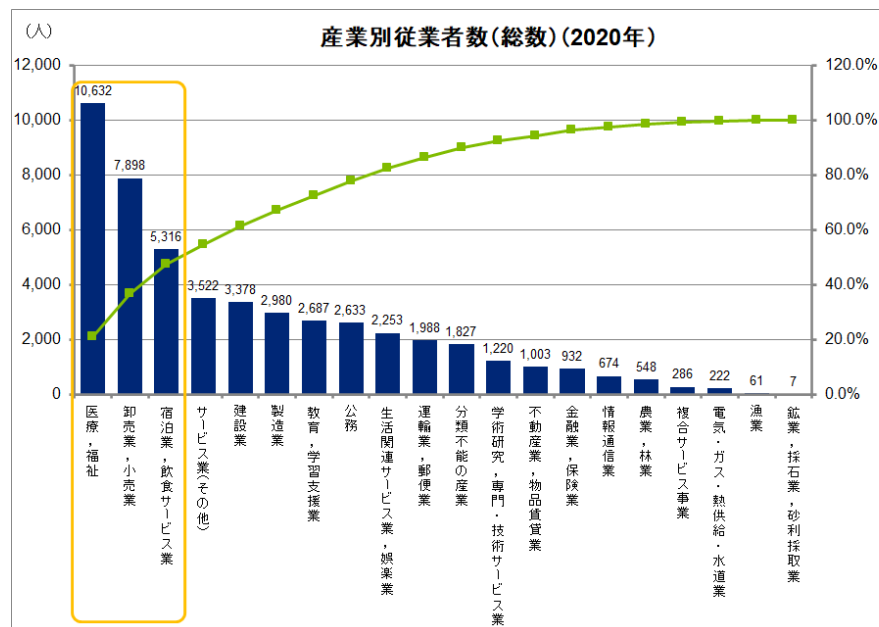
出所：住民基本台帳

# 産業別従業者数（総数）

医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業で半数を占めています

## 産業別従業者数（総数）

- 2020年の産業別従業者数をみると、医療・福祉が最も多く全体の2割を占めており、次いで、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業の順に多く、この3つで全体の約半数を占めています。
- 2015年と比較すると、全体的に総数は減少していますが、医療・福祉は500人程度増加しており、割合が高くなっています。



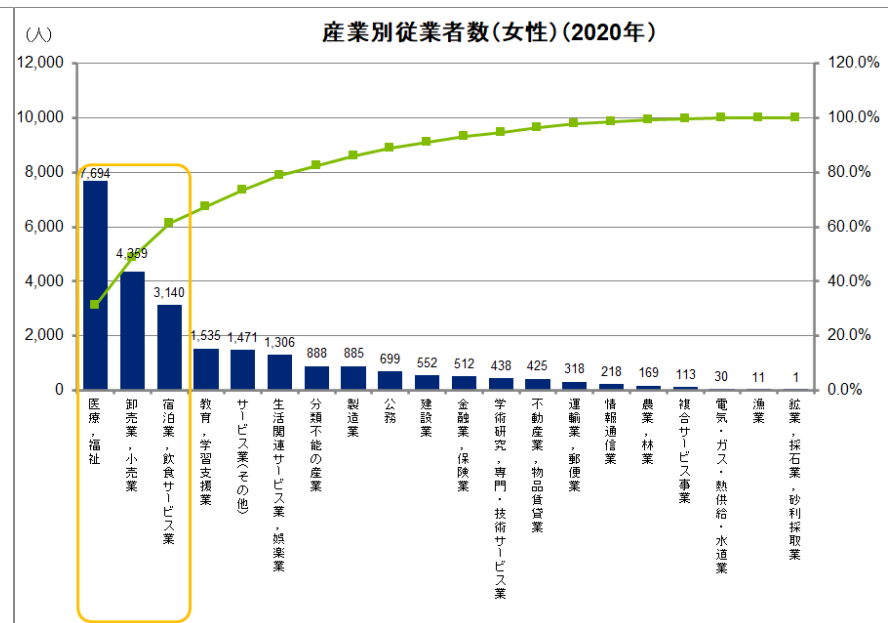
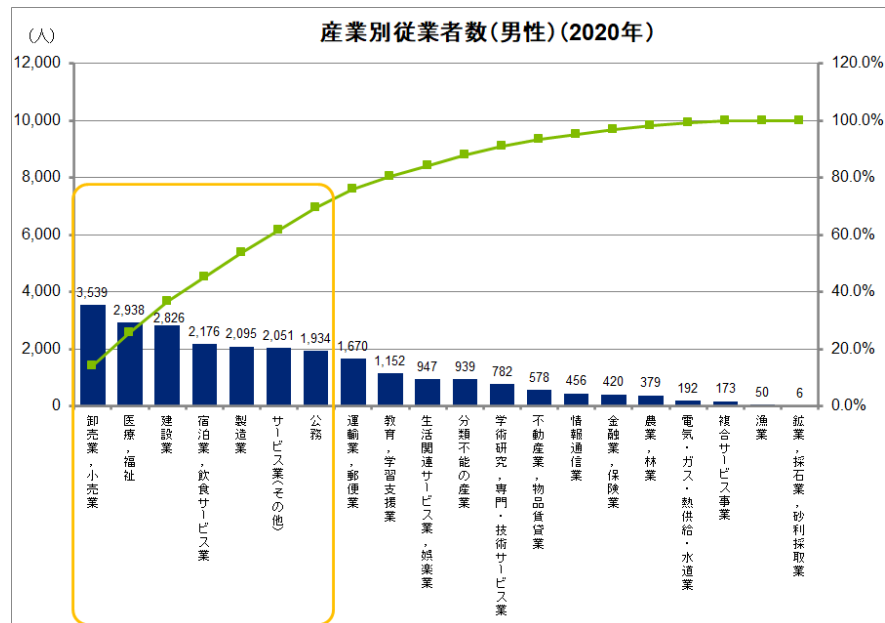
出所：国勢調査

# 産業別従業者数（男女別）

女性では医療・福祉が最も多く3割程度を占めています

## 産業別従業者数（男女別）

- 男女別にみると、男性では、男性では、卸売業・小売業が最も多いですが、医療・福祉、建設業、宿泊業・飲食サービス業、製造業などは、ほぼ同規模となっています。
- 女性では、医療・福祉が最も多く3割を占めており、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業を合わせると6割を超えています。

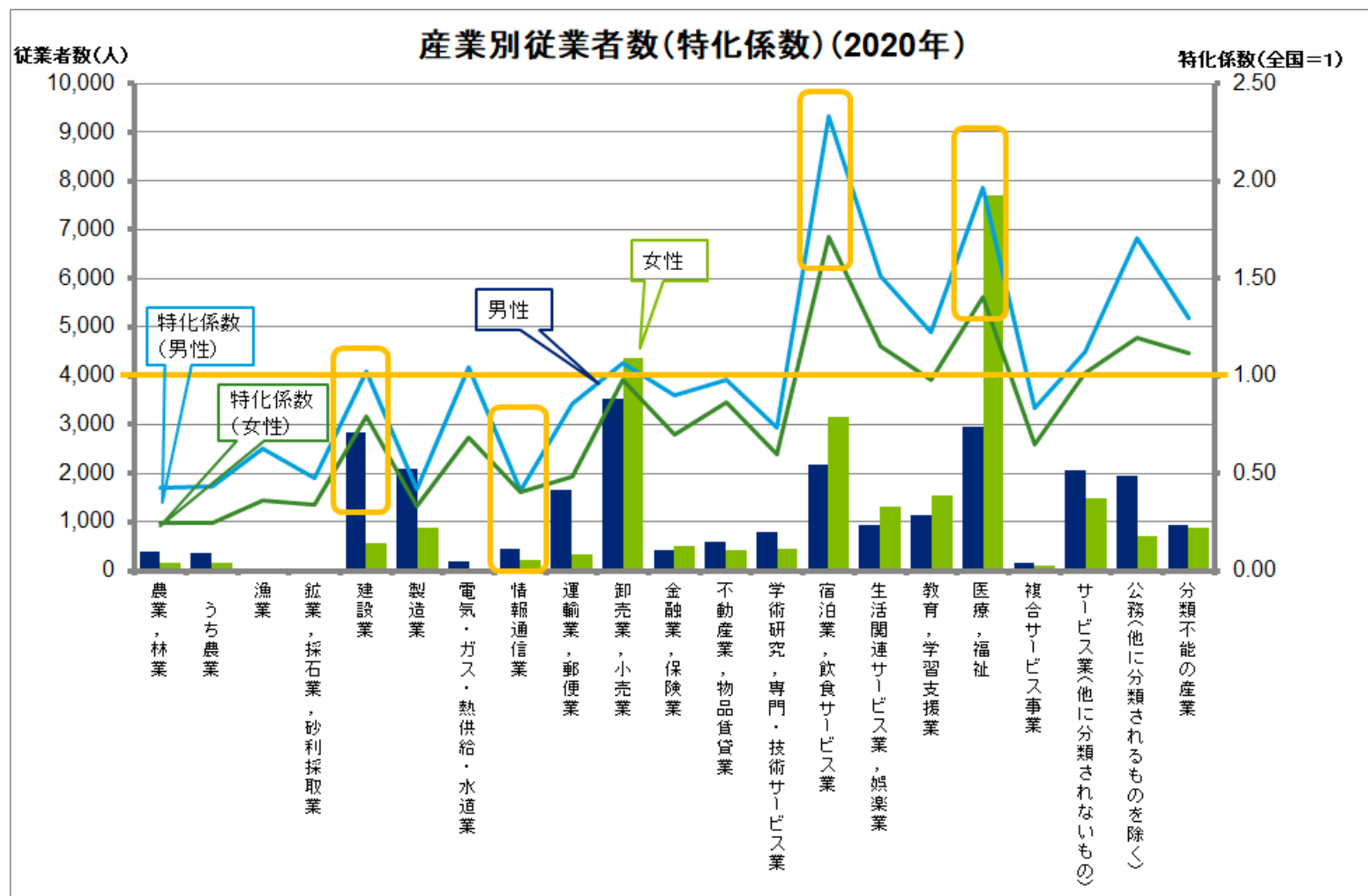


出所：国勢調査

# 男女別産業別従業者数の国との比較

宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉は高く、製造業等は低くなっています

## 男女別産業別従業者数の国との比較



- 産業別従業者の割合を全国の割合と比較すると、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉において、全国水準を大きく上回っています。
- 他方、製造業、情報通信業、農林水産業などは全国水準を下回っています。

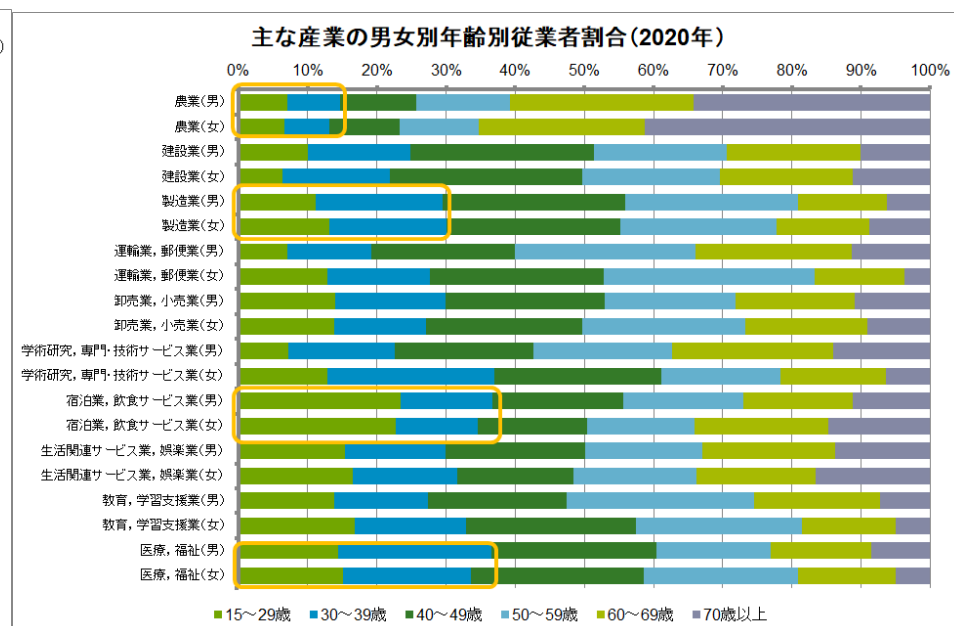
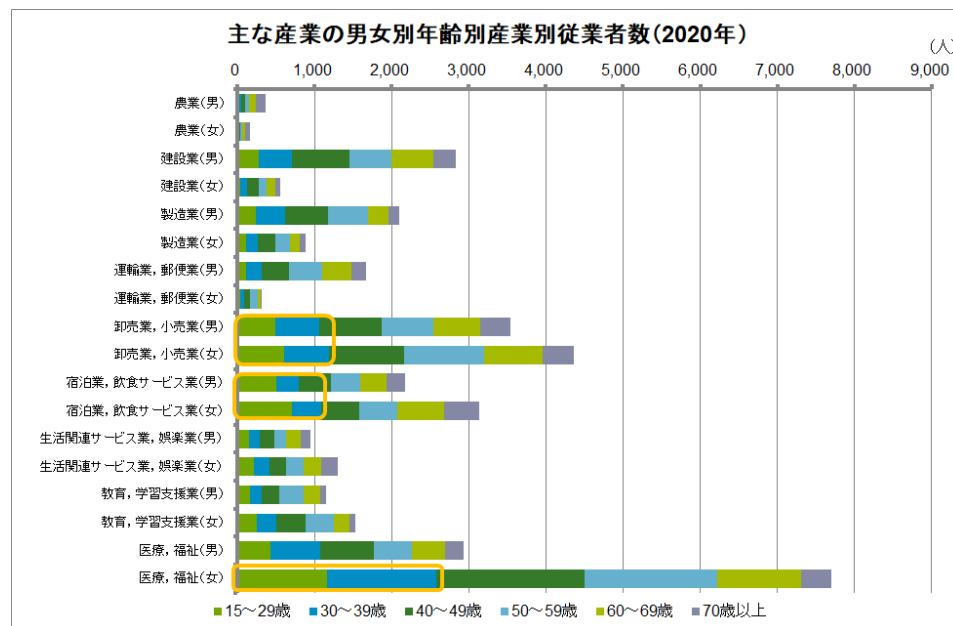
出所：国勢調査

# 男女別年齢別産業別従業者数

39歳以下で、医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業が多い

## 男女別年齢別産業別従業者数

- 主な産業における年齢別の従業者数を見ると、39歳以下の男性では、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業の従業者が多く、39歳以下の女性では、医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業の従業者が多くなっています。
- 割合では、医療・福祉、宿泊業、飲食サービス業・製造業において、39歳以下の従業者割合が高く、農業は、男女とも3割以上が70歳以上となっています。

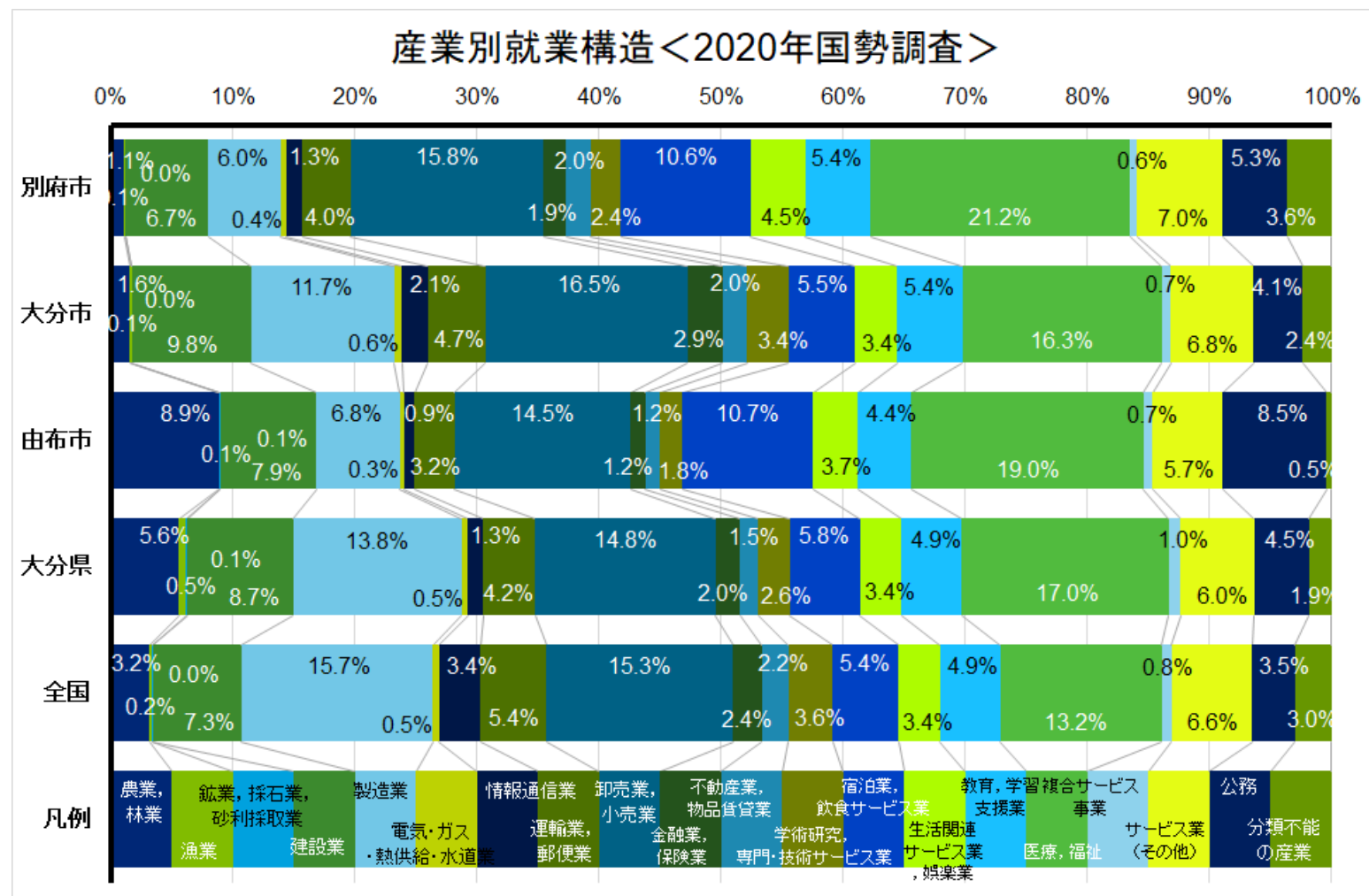


出所：国勢調査

# 産業別就業構造

医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業の割合が高くなっています

## 産業別就業構造の比較



■ 本市は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業の割合が高く、農林業、製造業の割合が低くなっています。

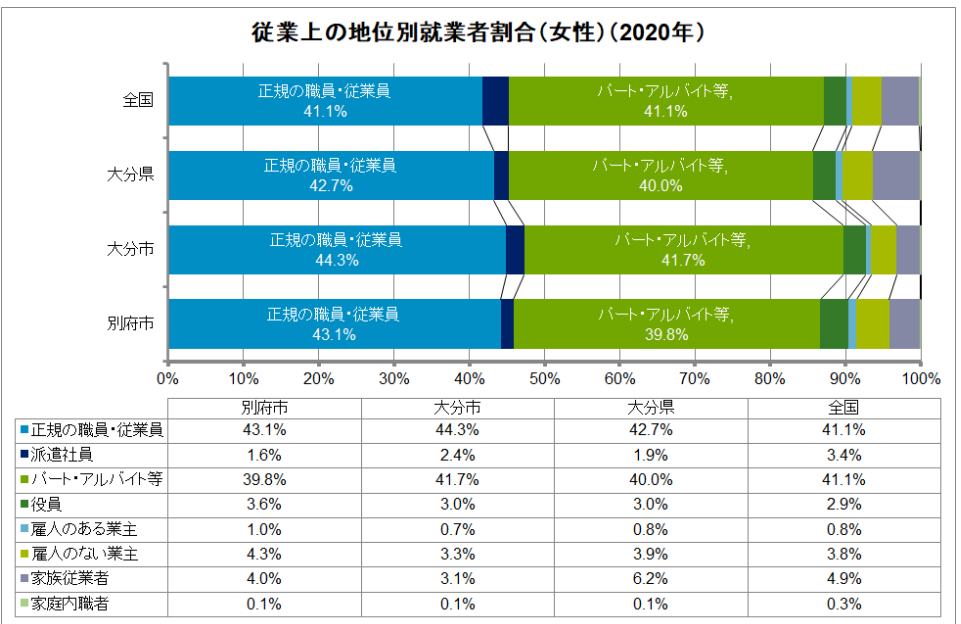
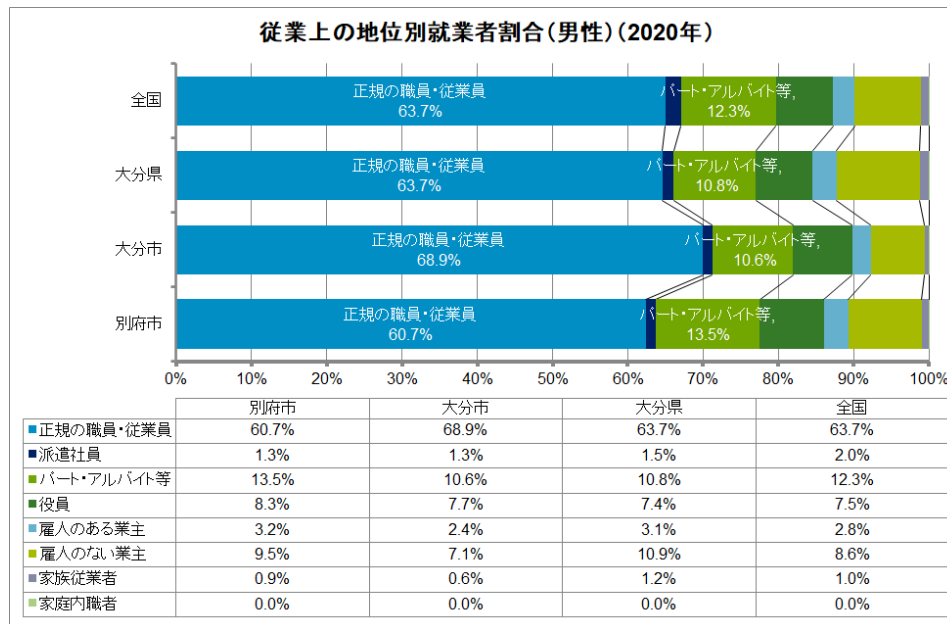
出所：国勢調査

# 従業上の地位別就業者割合

正規職員の割合は、女性は全国水準より高く、男性は低くなっています

## 従業上の地位別就業者割合

- 男性の正規職員の割合は、全国水準、大分県水準を3ポイント、大分市水準を8.2ポイント下回っています。これは、大企業の製造業従事者が比較的少ないことが原因と考えられます。
- 一方、女性では、全国より2ポイント高く、これは、比較的正規職員の割合の高い医療・福祉従事者が多いことが原因と考えられます。

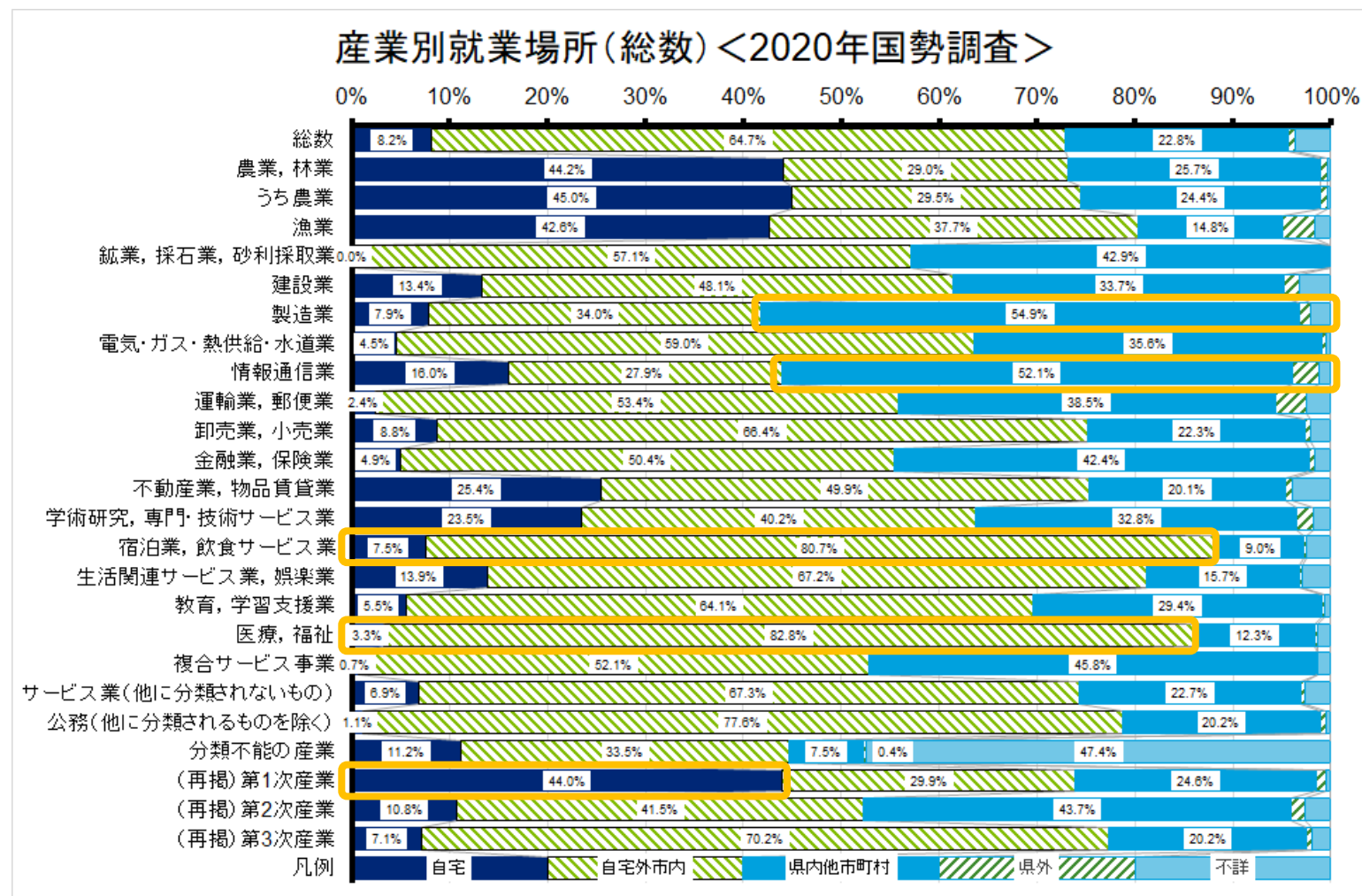


出所：国勢調査

# 産業別就業場所

医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業で市内就業者が8割を超えています

## 産業別就業場所



- 産業別の就業場所をみると、農林水産業では自宅が4割を超えています。
- 宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉では市内就業者が8割を超えています。
- 製造業、情報通信業では市外が半数を超えています。

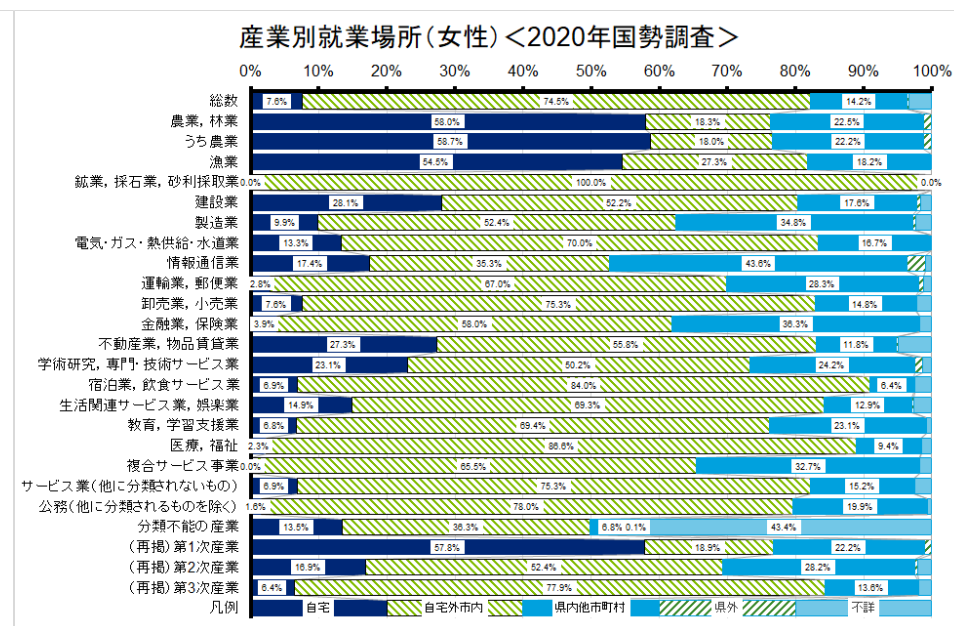
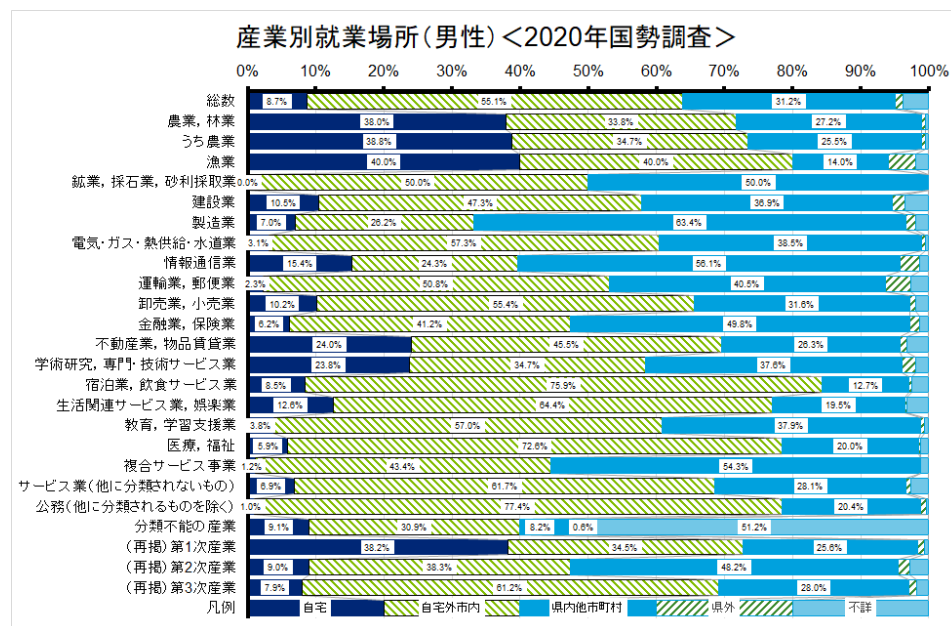
出所：国勢調査

# 産業別就業場所（男女別）

産業別にみると、男性より女性のほうが市内就業割合が高くなっています

## 産業別就業場所（男女別）

- 市内で就業している人は、男性で63.8%、女性で81.1%となっています。
- 産業別にみても、男性より女性のほうが市内就業割合が高くなっています。



出所：国勢調査

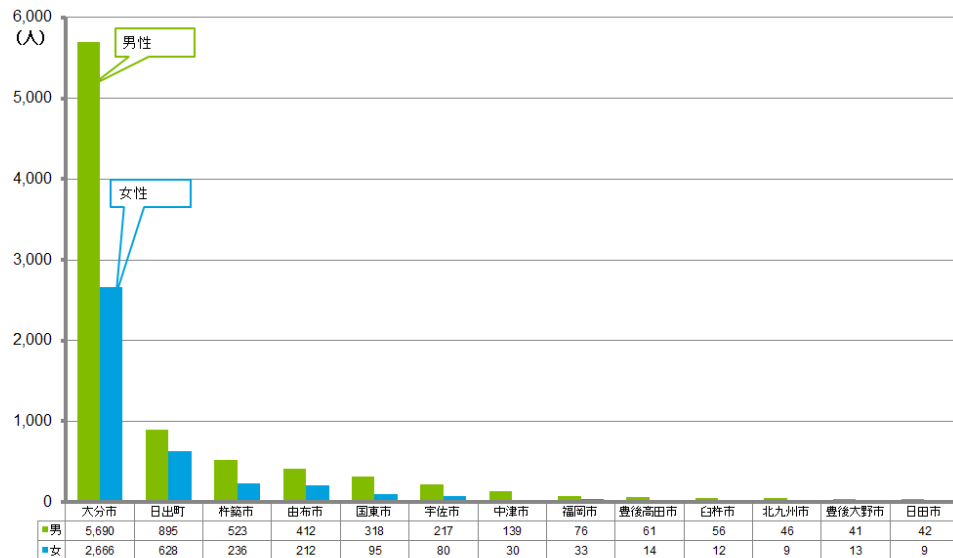
# 通勤通学の状況

別府市からは大分市へ、別府市へは大分市、日出町からが多くなっています

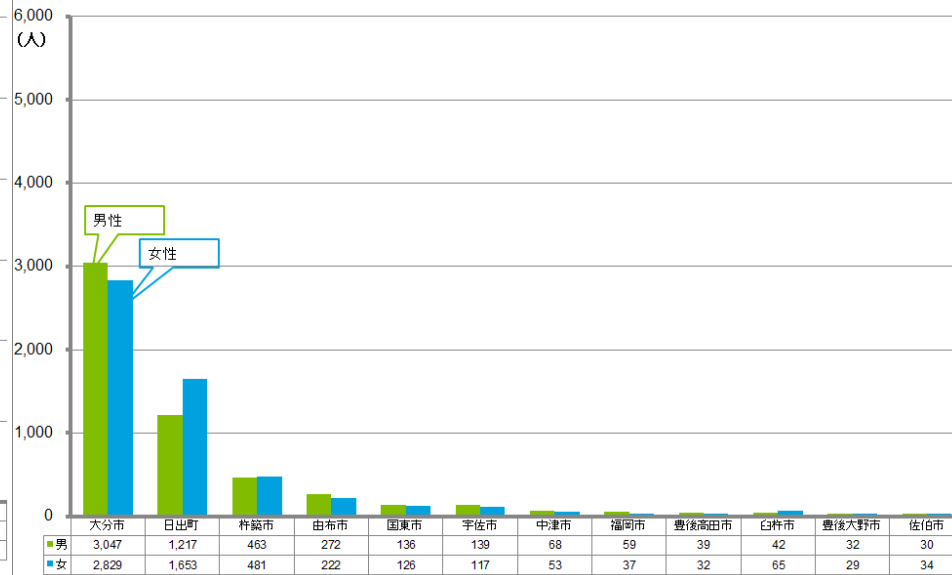
## 通勤通学の状況

- 別府市からの通勤通学者をみると、男女とも大分市へが最も多くなっています。特に男性が女性の2倍近くなっています。
- 別府市への通勤通学者をみると、大分市からは男女ほぼ同数となっていますが、日出町からは女性が多く通勤通学しています。

通勤通学の状況(別府市からの通勤者)＜2020年国勢調査＞



通勤通学の状況(別府市への通勤者)＜2020年国勢調査＞



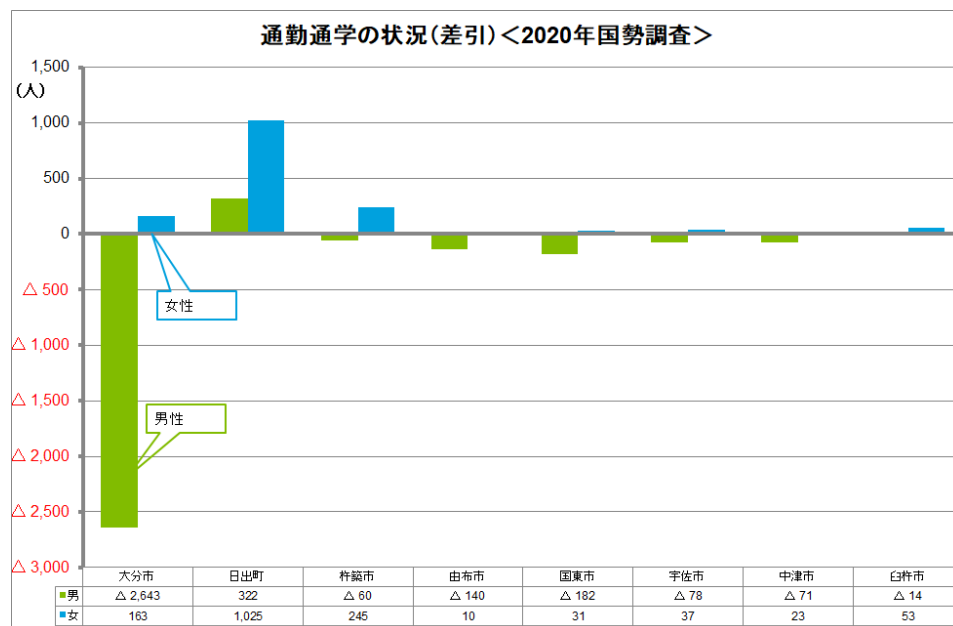
出所：国勢調査

# 通勤通学の状況

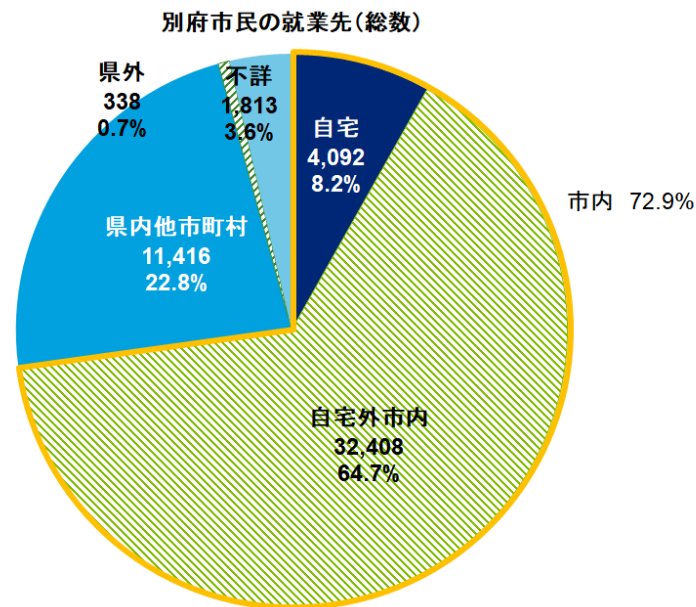
市内従事者は7割を超え、市外従事者は大分市への男性が多くなっています

## 通勤通学の状況、就業先

- 男女別に通勤通学の差し引きをみると、男性の大分市への通勤通学者が多くなっており、女性は日出町、杵築市、大分市から別府市への通勤通学者が多くなっています。
- 市内で従事しているのは、全体の72.9%となっています。



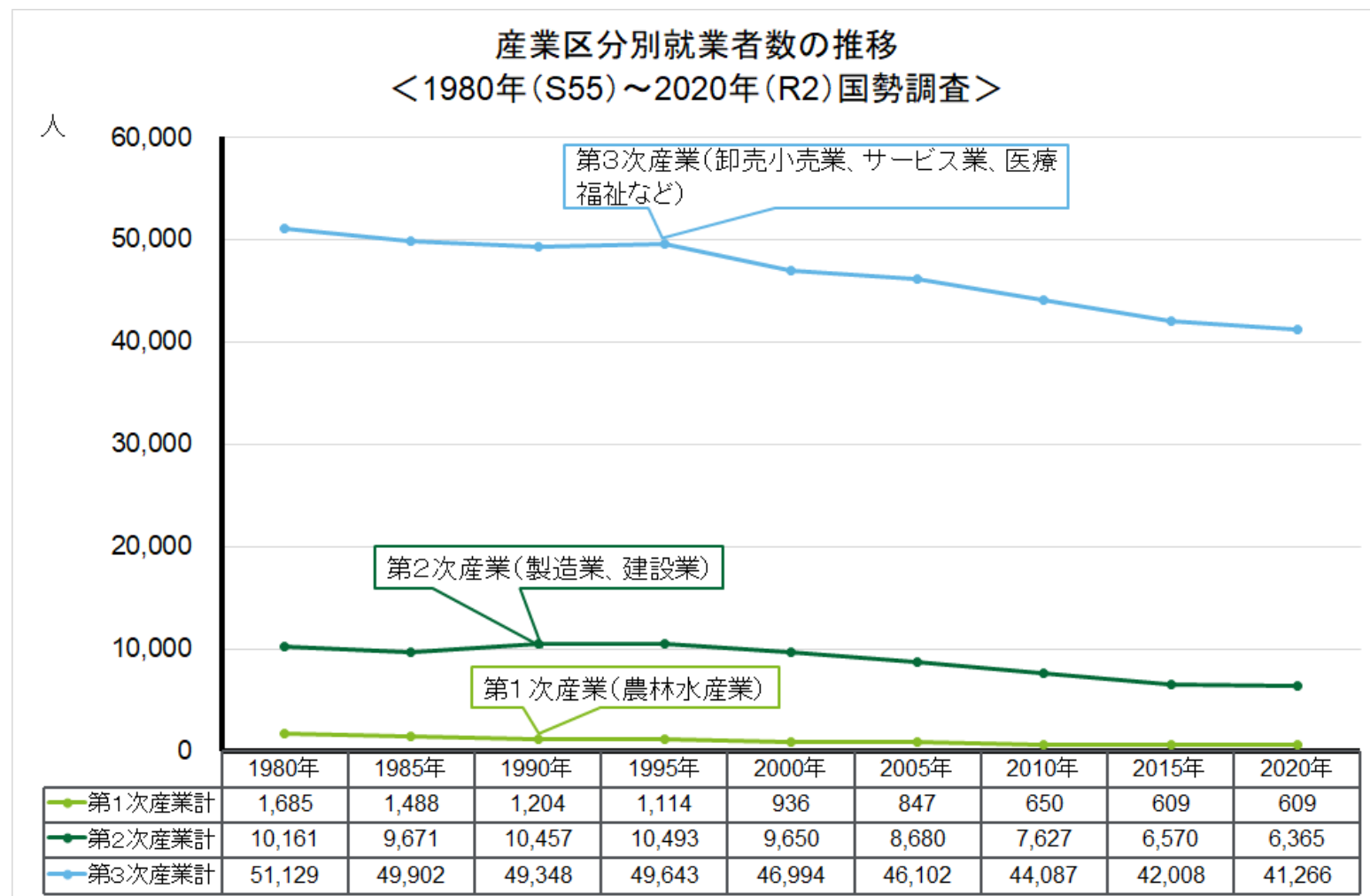
出所：国勢調査



# 産業区分別就業者数の推移

生産年齢人口の減少に伴い、全ての産業区分で就業者数は減少しています

## 産業区分別就業者数の推移



■ 生産年齢人口の減少に伴い、全ての産業区分で就業者数は減少しています。

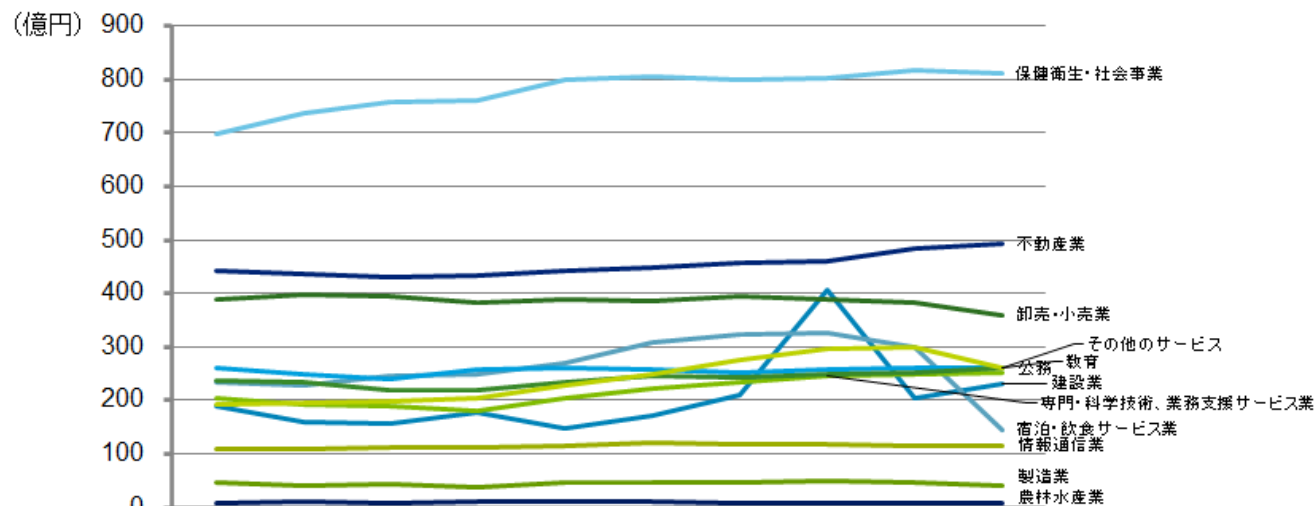
出所：国勢調査

# 主な経済活動別市内総生産の推移

保健衛生・社会事業、不動産業などで総生産が増加しています

## 主な経済活動別市内総生産の推移

主な経済活動別市内総生産の推移(2011年～2020年)



|                   | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 農林水産業             | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 10     | 9      | 8      | 7      | 7      |
| 製造業               | 45     | 40     | 43     | 38     | 47     | 47     | 45     | 49     | 45     | 40     |
| 建設業               | 188    | 158    | 157    | 176    | 146    | 172    | 211    | 407    | 205    | 232    |
| 卸売・小売業            | 388    | 398    | 396    | 384    | 388    | 387    | 394    | 389    | 381    | 360    |
| 宿泊・飲食サービス業        | 233    | 228    | 246    | 250    | 270    | 307    | 325    | 326    | 298    | 145    |
| 情報通信業             | 109    | 109    | 112    | 113    | 116    | 120    | 119    | 119    | 115    | 116    |
| 不動産業              | 443    | 437    | 431    | 435    | 443    | 449    | 457    | 461    | 485    | 492    |
| 専門・科学技術、業務支援サービス業 | 203    | 192    | 188    | 181    | 204    | 223    | 235    | 246    | 248    | 251    |
| 公務                | 259    | 248    | 241    | 256    | 260    | 256    | 253    | 256    | 260    | 261    |
| 教育                | 237    | 233    | 219    | 218    | 235    | 246    | 242    | 248    | 250    | 259    |
| 保健衛生・社会事業         | 698    | 736    | 759    | 760    | 799    | 805    | 801    | 802    | 817    | 811    |
| その他のサービス          | 193    | 197    | 198    | 203    | 229    | 249    | 276    | 297    | 300    | 261    |

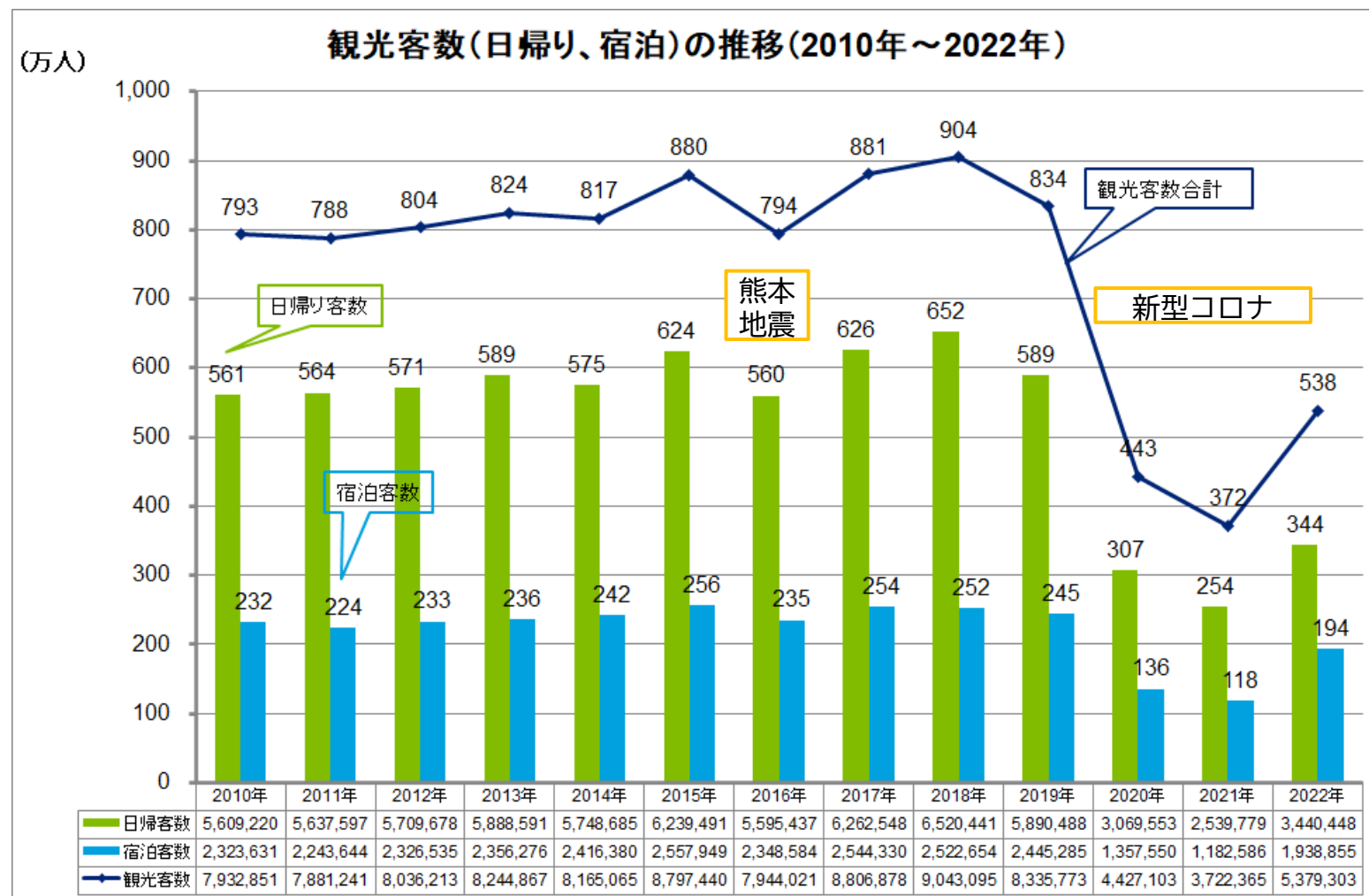
- 保健衛生・社会事業で10年間で100億円程度増加しています。
- 宿泊・飲食サービス業は増加傾向にありましたが、2020年度は新型コロナの影響もあり、半分程度に減少しています。

出所：大分県市町村民経済計算

# 観光客数の推移

観光客数は2018年まで増加してその後減少し、再び増加しています

## 観光客数の推移



- 新型コロナの影響により、2020年、2021年は、大きく落ち込んでいます。
- 2022年は宿泊客数の戻りが早い状況です。

# 地域幸福度（Well-Being）指標について

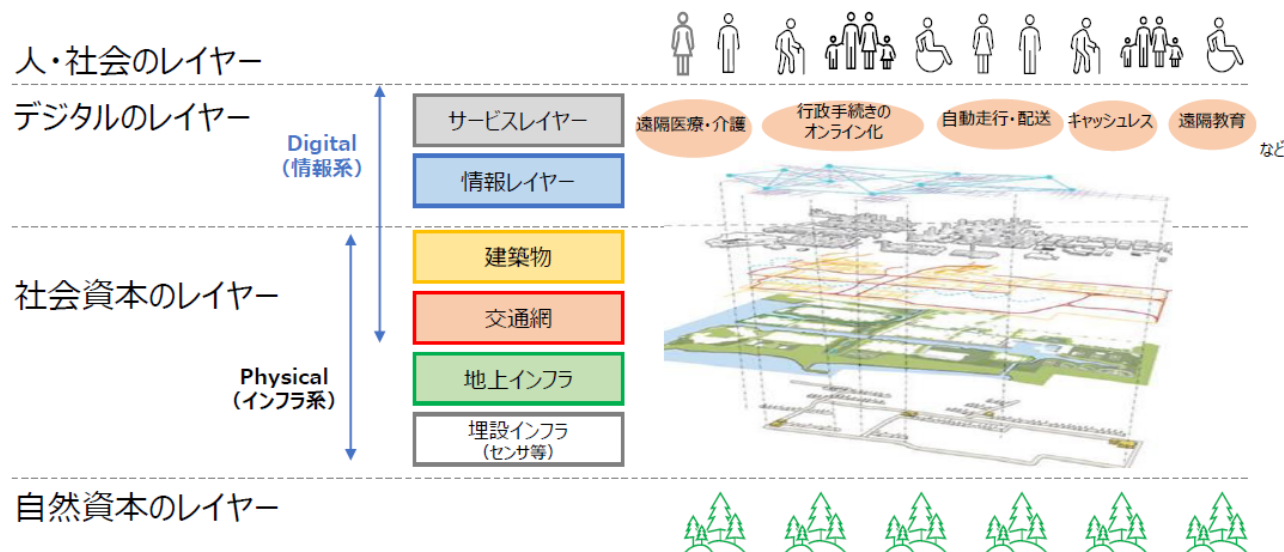
# 地域幸福度（Well-Being）指標の狙い

暮らしやすさと幸福感を、客観・主観の両方の指標で数値化、可視化しています

## 地域幸福度（Well-Being）指標の狙い

### 地域幸福度(Well-Being)指標の開発起点と狙い

- 地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。
- 過去10年ほどのスマートシティの歴史では、個々の事業のデジタル化の手法やインフラの議論に偏りがちでした。しかし本来は、市民の幸福感つまりWell-beingの向上に向けた取り組みとなるべきです。
- 市民一人ひとりが、デジタル化・スマート化は自分にとってどういう意味があるかを理解する為にも、デジタル化・スマート化に伴う心豊かな暮らしの変化を可視化することに意義があります。



出典: <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiki/kokusentoc/supercity/dai3/shiryou2.pdf> を基に筆者作成

出所：デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標利活用ガイドブック」

# 導入目的

市民の視点からみた指標により、政策立案や検証に役立てます

## 導入目的

### 地域幸福度(Well-Being)指標の導入目的

■ 地域幸福度(Well-Being)指標の開発・導入目的は以下の6つです。

- **スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化**
  - デジタルやデータではなく、市民の幸福感（Well-being）の向上に向けてスマートシティ・街づくりを始める
- **市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化**
  - 行政、企業からではなく、市民の視点に立ちスマートシティが市民の暮らしやすさや幸福感に繋がっているか、を確認しながら進める
- **ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出**
  - 都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えることができる
- **WHO等の国際的な枠組みを導入**
  - 世界的な基準と整合させた枠組みを導入し、日本のガラパゴス化を回避する
- **客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化**
  - 基礎自治体毎の客観的に測定できるデータと市民の主観によるアンケートデータの両方を無料で利用できる
- **まちづくりのEBPM・ワイズスペンディングに役立てる**
  - データ(根拠)に基づいた政策立案・検証や、政策効果が乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できる

地域幸福度(Well-Being)指標で採用する指標や分析手法については、今後も改善・改良を重ね、更なる進化を目指してまいります。

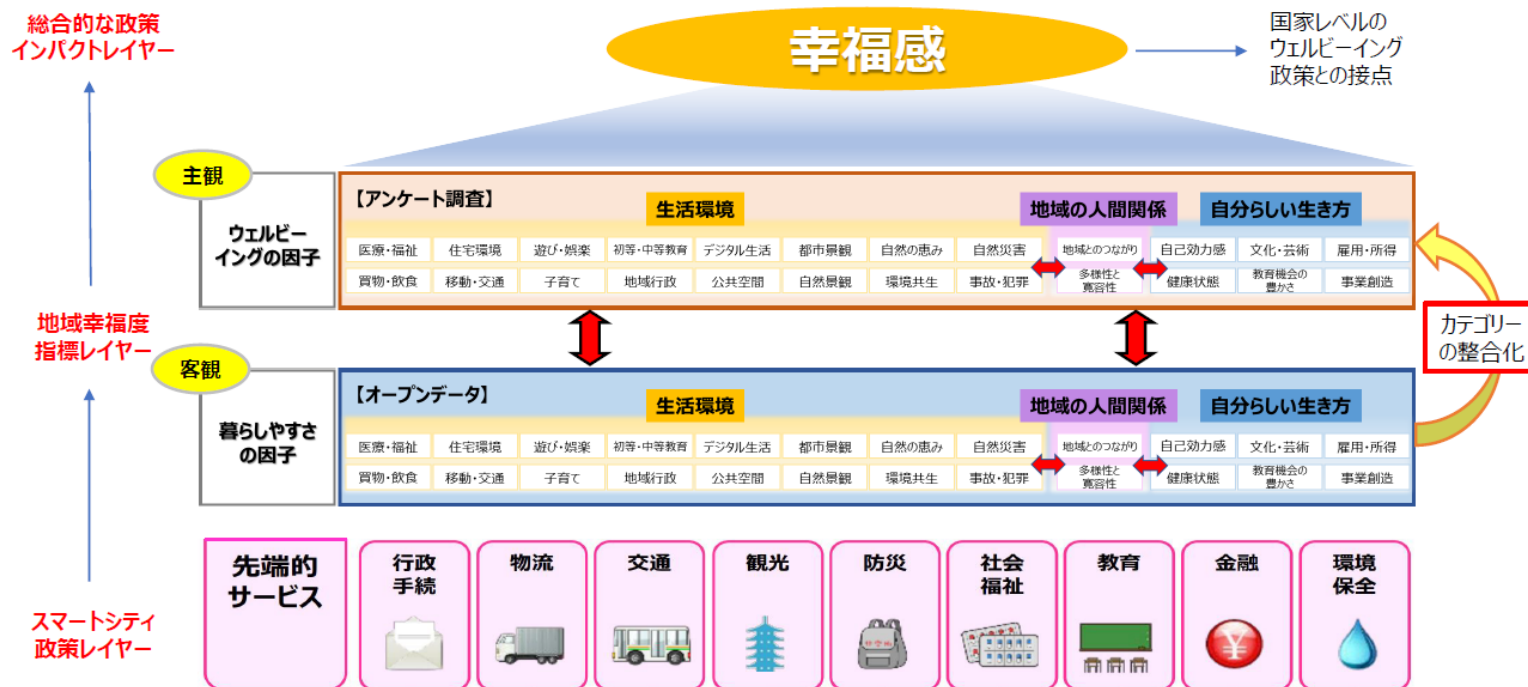
# 全体構成

主観と客観を関連付け、各自治体が注目すべき因子を抽出します

## 全体構成図

### 地域幸福度(Well-Being)指標の全体構成図 ～ 主観・客観データの構造

- 地域幸福度指標は、各地域における政策と、その政策インパクトとして現れる市民の幸福感とを結びます。
- 主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、因子間の関連から各自治体が注目すべき因子の抽出が可能です。



最先端サービスの図: [https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/tihousousei\\_setumeikai/pdf/r02-07-21-shiryou12.pdf](https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/tihousousei_setumeikai/pdf/r02-07-21-shiryou12.pdf)

出所: デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度 (Well-Being) 指標利活用ガイドブック」

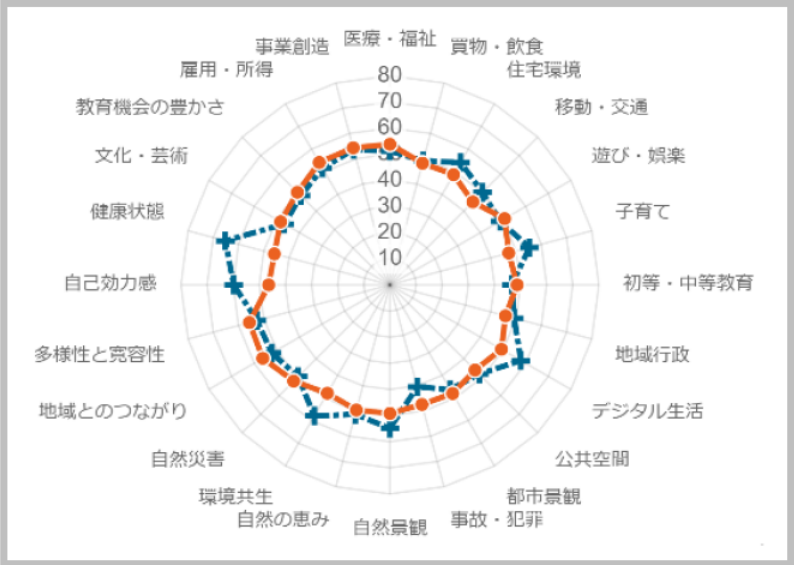
# 因子群とカテゴリー

24のカテゴリーに分け、データを偏差値化して分析します

## 因子群とカテゴリー

### 地域幸福度(Well-Being)指標の因子群とカテゴリー

- 地域幸福度指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(“生活環境”、“地域の人間関係”、“自分らしい生き方”)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。
- 24のカテゴリー毎に、主観指標はアンケート設問、客観指標はKPIが、設定されています。
- 主観指標・客観指標ともに、データを偏差値化しています。



橙色の線＝主観評価、青色の線＝客観評価

| カテゴリー名称  |       |             |
|----------|-------|-------------|
| 生活環境(16) |       | 地域の人間関係(2)  |
| 医療・福祉    | 公共空間  | 地域とのつながり    |
| 買物・飲食    | 都市景観  | 多様性と寛容性     |
| 住宅環境     | 自然景観  | 自分らしい生き方(6) |
| 移動・交通    | 自然の恵み | 自己効力感       |
| 遊び・娯楽    | 環境共生  | 健康状態        |
| 子育て      | 自然災害  | 文化・芸術       |
| 初等・中等教育  | 自己・犯罪 | 教育機会の豊かさ    |
| 地域行政     |       | 雇用・所得       |
| デジタル生活   |       | 事業創造        |

# 偏差値の活用

指標の可視化のため、偏差値を算出して比較可能なものとしています

## 偏差値の活用

### 地域幸福度(Well-Being)指標 ～ 偏差値

- 地域幸福度(Well-Being)指標では、偏差値化した主観指標・客観指標を使用します。
- 偏差値化の狙いは、まちの特徴をグラフの凹凸の形で読み取れるようにすることです。  
(計測単位の異なるKPI同士は、単純な数値の比較では特徴を読み取ることができません。例えば、交通事故件数1,000件(偏差値60)と、健康寿命75歳(偏差値50)は、数値同士では直接の比較はできませんが、偏差値化すれば比較可能です。)
- 客観指標は、人口10万人以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出しています。人口10万人未満の都市については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出しています。数値の高い方が悪い状態を表す一部のKPI(交通事故件数等。該当KPIはKPIカタログ参照)については、数値が高いほど偏差値が低くなるように計算式を修正しています。
- 主観指標は、人口10万人以上かつ回答数100以上の自治体の数値をベースとした偏差値を算出しています。人口10万人未満または回答数100未満については、上記の都市の平均値と標準偏差を適用して偏差値を算出しています。
- 多くの人に馴染み深い「偏差値」という言葉が、「競争」や「ランキング」を想起させがちですが、自治体同士の過度な比較は避け、自身のまちの特徴を読み取ることを主目的としてください。

#### ■ 偏差値計算式

$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

# 主観データの調査

主観データは、全国比較が可能となるよう設計されて実施されています

## 主観データの調査

### 地域幸福度(Well-Being)指標 ～ 令和6年度全国アンケート調査

#### ■ 令和6年度全国アンケート調査における調査設計は以下のとおり

| 項目                     | 調査概要                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調査設計                   | <ul style="list-style-type: none"><li>100以上確保できる自治体の数を極大化するため、母集団構成比による回収は考慮せず、自治体の規模に応じて回答数の目標値を設定した調査</li><li>政令指定都市で最低1,000、東京23区で400、令和3～5年度補正デジType2/3/S採択自治体及びスーパーシティ・デジタル田園健康特区で400、その他自治体は100を回収目標として設定</li></ul> |
| 調査手法                   | モニターハメール等による依頼の後、WEB調査画面にて回答していただくインターネット調査                                                                                                                                                                               |
| 対象地域                   | 全国                                                                                                                                                                                                                        |
| 対象者条件                  | 18歳～89歳の男女                                                                                                                                                                                                                |
| 回収目標数／有効回答数            | 100,000 / 101,498                                                                                                                                                                                                         |
| 対象自治体数<br>(うち回答数100以上) | 684団体 (668団体)                                                                                                                                                                                                             |
| 設問数                    | 51問（必須50問とオプショナル設問1問；設問一覧は次項を参照ください）                                                                                                                                                                                      |
| 調査期間                   | 2024年5月14日（火）～2024年5月20日（月）                                                                                                                                                                                               |

17

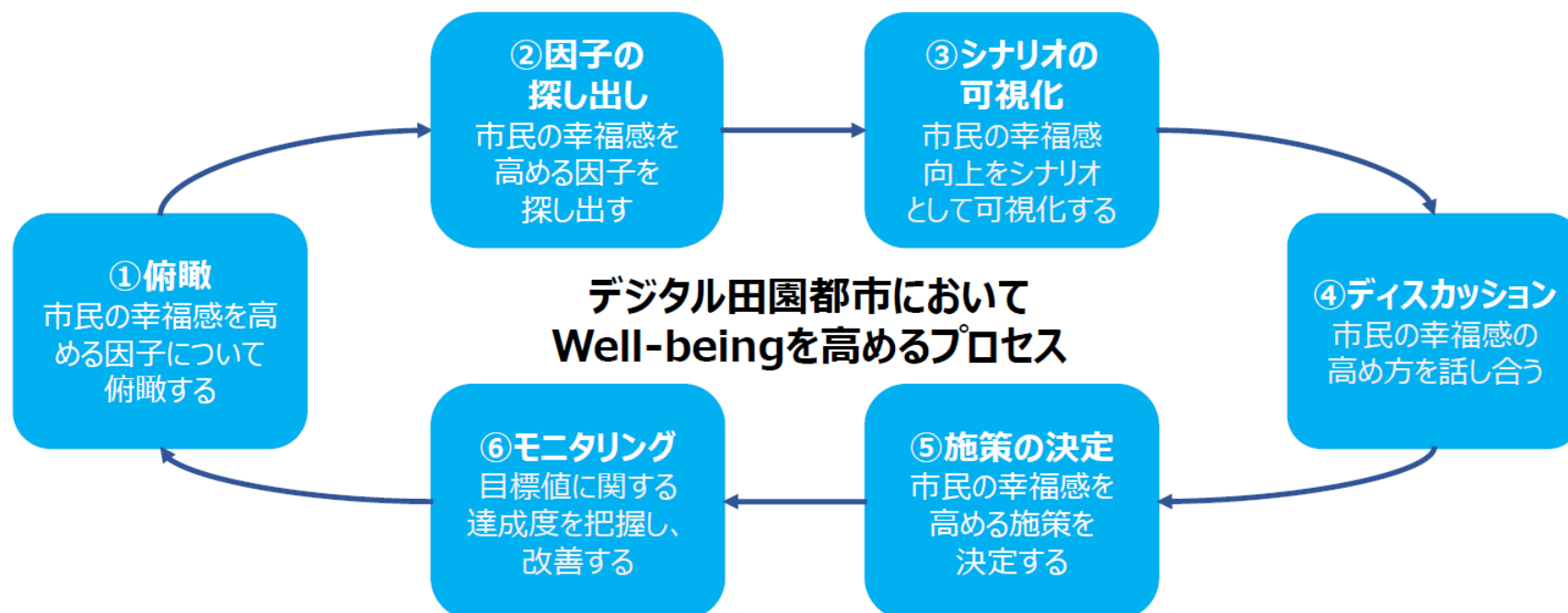
## 指標の活用手順

指標をもとに、施策の決定、モニタリングにつなげるような活用を想定されています

## 指標の活用手順

### 地域幸福度(Well-Being)指標活用の手順（フロー）

- まず、データを基に市民の幸福の因子を探索します。市民を軸に置き、幸福の因子に関連する施策や効果等を整理し、シナリオとして可視化することで、これまで見えてこなかった課題やニーズを把握できます。次に、対話を基に施策に関する多数のアイデアを出し、その施策を評価するための指標を設定します。



39

# 別府市における地域幸福度（Well-Being）指標の概要

## 景観や医療福祉が高く、教育、交通、治安などで低くなっています

### 指標の概要

- 主観データ（アンケート調査回答）
  - 景観や医療福祉で高く、教育や治安、交通で低くなっています。
- 客観データ（統計データ等）
  - 自然景観、自己効力感で高く、デジタル生活、文化・芸術で低くなっています。
- 主観データと客観データのギャップ
  - 主観が高くなっている、つまり、統計データよりも市民実感の評価が高くなっているのが、デジタル生活、都市景観、医療・福祉となっています。
  - 一方、客観が高く、つまり、統計データよりも市民実感の評価が低くなっているのが、初等・中等教育、自己効力感、移動・交通、買物・飲食となっています。

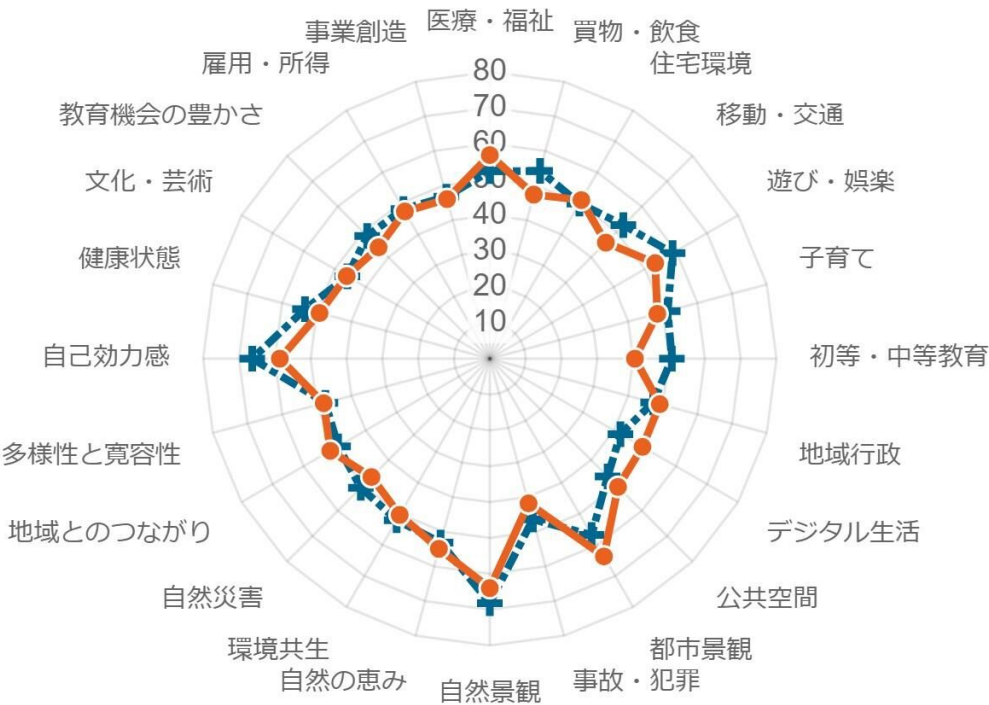
| カテゴリ・評価指標 | 主観データ | 客観データ | 主観－客観  |
|-----------|-------|-------|--------|
| 医療・福祉     | 56.8  | 52.3  | 4.5    |
| 買物・飲食     | 47.4  | 54.2  | △ 6.8  |
| 住宅環境      | 51.1  | 50.0  | 1.1    |
| 移動・交通     | 45.8  | 52.7  | △ 6.9  |
| 遊び・娯楽     | 53.3  | 58.9  | △ 5.6  |
| 子育て       | 48.4  | 51.4  | △ 3.0  |
| 初等・中等教育   | 40.5  | 50.8  | △ 10.3 |
| 地域行政      | 49.1  | 47.2  | 1.9    |
| デジタル生活    | 49.2  | 42.1  | 7.1    |
| 公共空間      | 50.6  | 46.5  | 4.1    |
| 都市景観      | 63.7  | 56.8  | 6.9    |
| 事故・犯罪     | 41.8  | 46.4  | △ 4.6  |
| 自然景観      | 64.0  | 68.2  | △ 4.2  |
| 自然の恵み     | 54.9  | 53.1  | 1.8    |
| 環境共生      | 50.3  | 52.0  | △ 1.7  |
| 自然災害      | 46.7  | 50.9  | △ 4.2  |
| 地域とのつながり  | 51.4  | 48.9  | 2.5    |
| 多様性と寛容性   | 48.0  | 47.5  | 0.5    |
| 自己効力感     | 58.6  | 66.3  | △ 7.7  |
| 健康状態      | 49.2  | 53.4  | △ 4.2  |
| 文化・芸術     | 46.1  | 45.9  | 0.2    |
| 教育機会の豊かさ  | 43.9  | 48.4  | △ 4.5  |
| 雇用・所得     | 47.4  | 48.2  | △ 0.8  |
| 事業創造      | 46.1  | 46.8  | △ 0.7  |

# カテゴリー別 客観と主観のギャップは、初等・中等教育で特に大きくなっています

## カテゴリー別グラフ

カテゴリー別

| カテゴリ・評価指標 | 主観データ | 客観データ | 主観-客観  |
|-----------|-------|-------|--------|
| 医療・福祉     | 56.8  | 52.3  | 4.5    |
| 買物・飲食     | 47.4  | 54.2  | △ 6.8  |
| 住宅環境      | 51.1  | 50.0  | 1.1    |
| 移動・交通     | 45.8  | 52.7  | △ 6.9  |
| 遊び・娯楽     | 53.3  | 58.9  | △ 5.6  |
| 子育て       | 48.4  | 51.4  | △ 3.0  |
| 初等・中等教育   | 40.5  | 50.8  | △ 10.3 |
| 地域行政      | 49.1  | 47.2  | 1.9    |
| デジタル生活    | 49.2  | 42.1  | 7.1    |
| 公共空間      | 50.6  | 46.5  | 4.1    |
| 都市景観      | 63.7  | 56.8  | 6.9    |
| 事故・犯罪     | 41.8  | 46.4  | △ 4.6  |
| 自然景観      | 64.0  | 68.2  | △ 4.2  |
| 自然の恵み     | 54.9  | 53.1  | 1.8    |
| 環境共生      | 50.3  | 52.0  | △ 1.7  |
| 自然災害      | 46.7  | 50.9  | △ 4.2  |
| 地域とのつながり  | 51.4  | 48.9  | 2.5    |
| 多様性と寛容性   | 48.0  | 47.5  | 0.5    |
| 自己効力感     | 58.6  | 66.3  | △ 7.7  |
| 健康状態      | 49.2  | 53.4  | △ 4.2  |
| 文化・芸術     | 46.1  | 45.9  | 0.2    |
| 教育機会の豊かさ  | 43.9  | 48.4  | △ 4.5  |
| 雇用・所得     | 47.4  | 48.2  | △ 0.8  |
| 事業創造      | 46.1  | 46.8  | △ 0.7  |



- 主観、客観の詳細は後述します。
- 主観と客観のギャップについて、主観が高くなっているのが、デジタル生活、都市景観、医療・福祉となっています。
- 一方、客観が高く（主観が低く）なっているのが、初等・中等教育、自己効力感、移動・交通、買物・飲食となっています。

【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

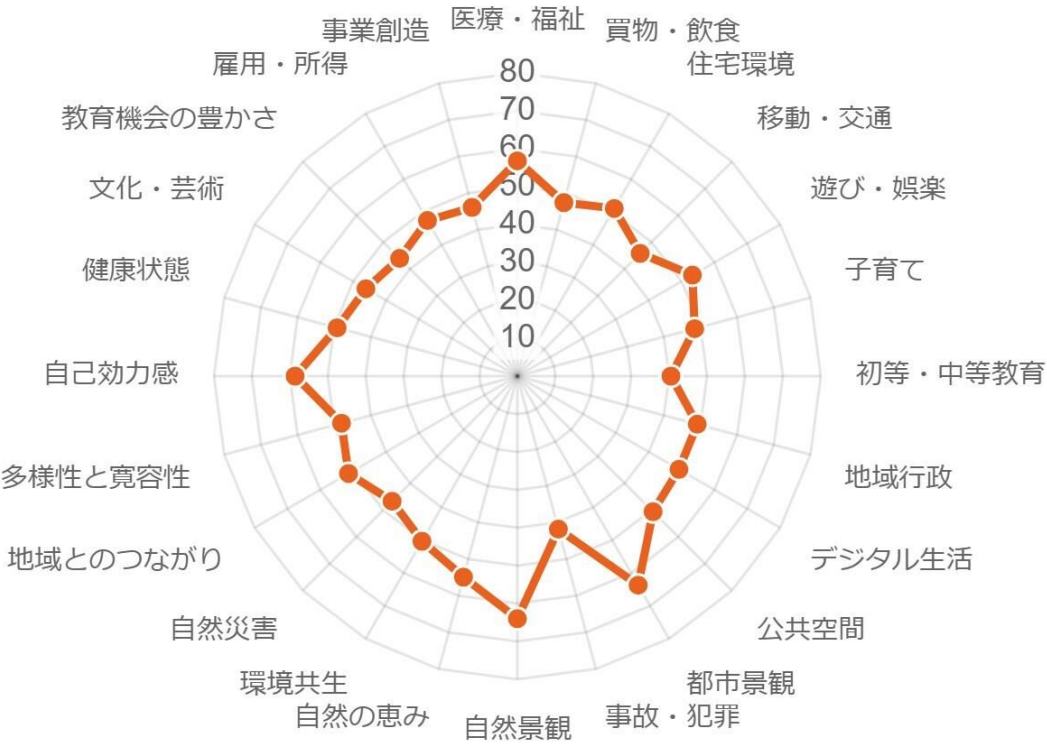
# カテゴリー別（主観データ）

景観や医療福祉で高く、教育や治安、交通で低くなっています

## カテゴリー別（主観データ）

カテゴリー別

| カテゴリ・評価指標 | 主観データ |
|-----------|-------|
| 自然景観      | 64.0  |
| 都市景観      | 63.7  |
| 自己効力感     | 58.6  |
| 医療・福祉     | 56.8  |
| 自然の恵み     | 54.9  |
| 遊び・娯楽     | 53.3  |
| 地域とのつながり  | 51.4  |
| 住宅環境      | 51.1  |
| 公共空間      | 50.6  |
| 環境共生      | 50.3  |
| デジタル生活    | 49.2  |
| 健康状態      | 49.2  |
| 地域行政      | 49.1  |
| 子育て       | 48.4  |
| 多様性と寛容性   | 48.0  |
| 買物・飲食     | 47.4  |
| 雇用・所得     | 47.4  |
| 自然災害      | 46.7  |
| 文化・芸術     | 46.1  |
| 事業創造      | 46.1  |
| 移動・交通     | 45.8  |
| 教育機会の豊かさ  | 43.9  |
| 事故・犯罪     | 41.8  |
| 初等・中等教育   | 40.5  |



- 主観データでは、自然景観、都市景観、自己効力感、医療・福祉で高くなっています。
- 一方、初等・中等教育、事故・犯罪、教育機会の豊かさ、移動・交通で低くなっています。

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

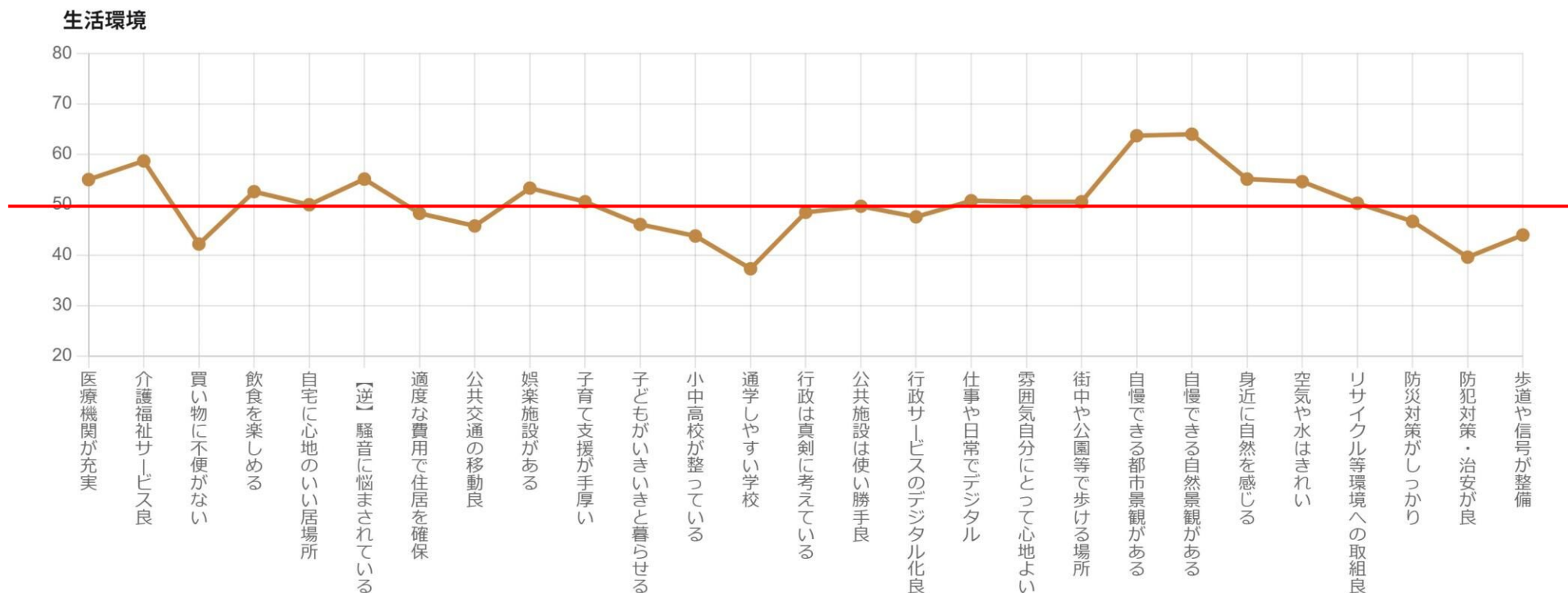
— 主観データ

# 主観データ（生活環境）

景観、医療福祉で高く、教育、買い物、治安で低くなっています

## 主観データ（生活環境）

- 都市景観、自然景観、介護福祉サービス、医療機関の充実で高くなっています。
- 一方、通学しやすい学校、防犯対策・治安、買い物に不便がないで低くなっています。



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

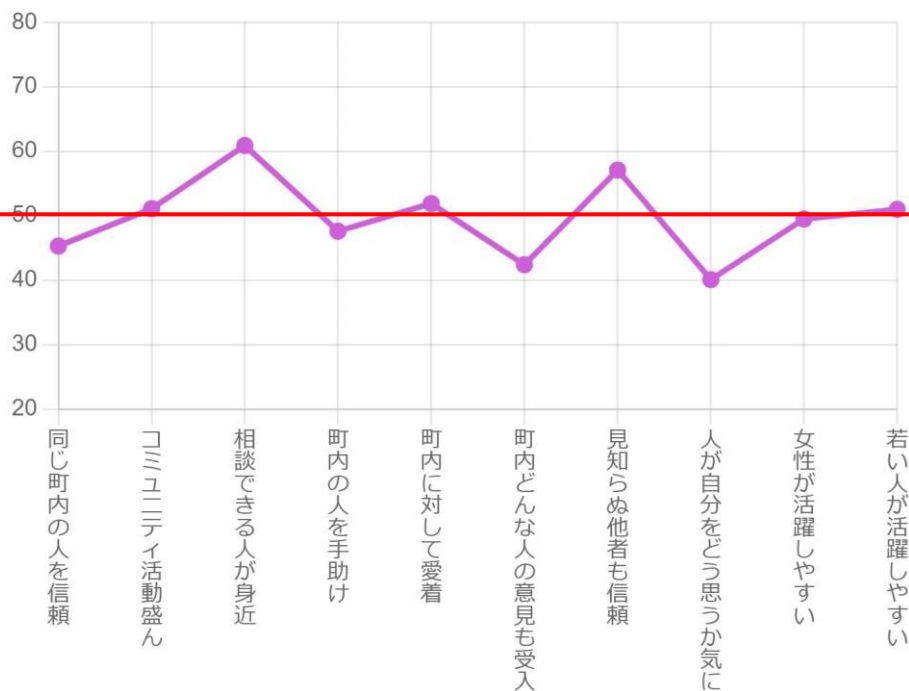
# 主観データ（地域の人間関係、自分らしい生き方）

相談できる、見知らぬ人も信頼、自分を好ましく思うのが高くなっています

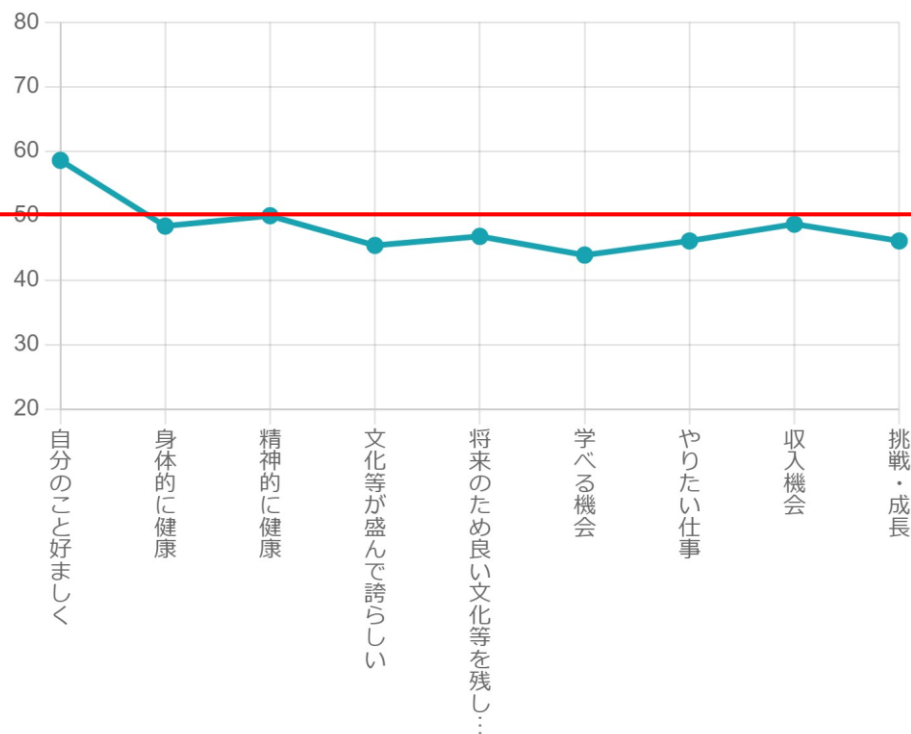
## 主観データ（地域の人間関係、自分らしい生き方）

- 相談できる人が身近、見知らぬ他者も信頼、自分のこと好ましく思う割合が高くなっています。
- 一方、人が自分をどう思うか気になる、町内どんな人の意見も受け入れる割合が低くなっています。

地域の人間関係



自分らしい生き方



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

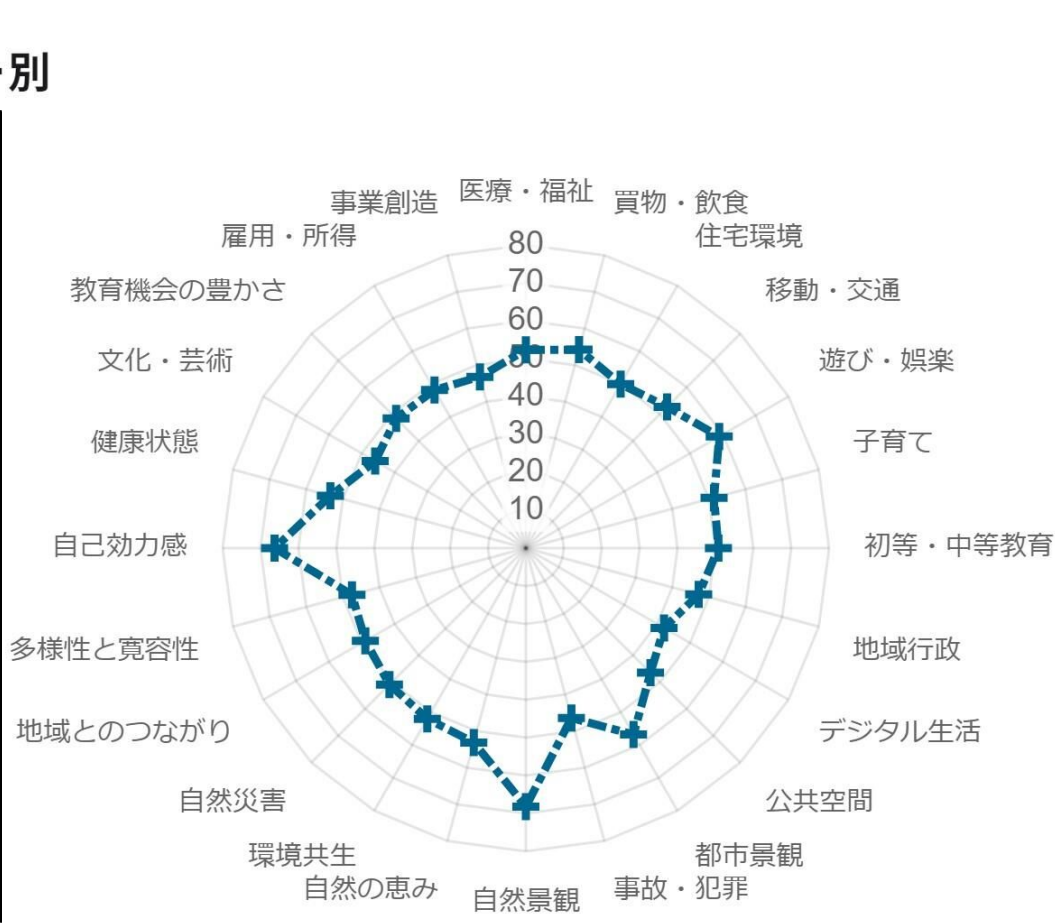
【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

# カテゴリー別（客観データ）

自然景観、自己効力感で高く、デジタル生活、文化・芸術で低くなっています

## カテゴリー別（客観データ）

| カテゴリー別    |       |
|-----------|-------|
| カテゴリ・評価指標 | 客観データ |
| 自然景観      | 68.2  |
| 自己効力感     | 66.3  |
| 遊び・娯楽     | 58.9  |
| 都市景観      | 56.8  |
| 買物・飲食     | 54.2  |
| 健康状態      | 53.4  |
| 自然の恵み     | 53.1  |
| 移動・交通     | 52.7  |
| 医療・福祉     | 52.3  |
| 環境共生      | 52.0  |
| 子育て       | 51.4  |
| 自然災害      | 50.9  |
| 初等・中等教育   | 50.8  |
| 住宅環境      | 50.0  |
| 地域とのつながり  | 48.9  |
| 教育機会の豊かさ  | 48.4  |
| 雇用・所得     | 48.2  |
| 多様性と寛容性   | 47.5  |
| 地域行政      | 47.2  |
| 事業創造      | 46.8  |
| 公共空間      | 46.5  |
| 事故・犯罪     | 46.4  |
| 文化・芸術     | 45.9  |
| デジタル生活    | 42.1  |



- 自然景観、自己効力感が特に高く、遊び・娯楽、都市景観、買物・飲食で高くなっています。
- 一方、デジタル生活、文化・芸術、事故・犯罪、公共空間、事業創造などで低くなっています。

【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

--- 客観データ

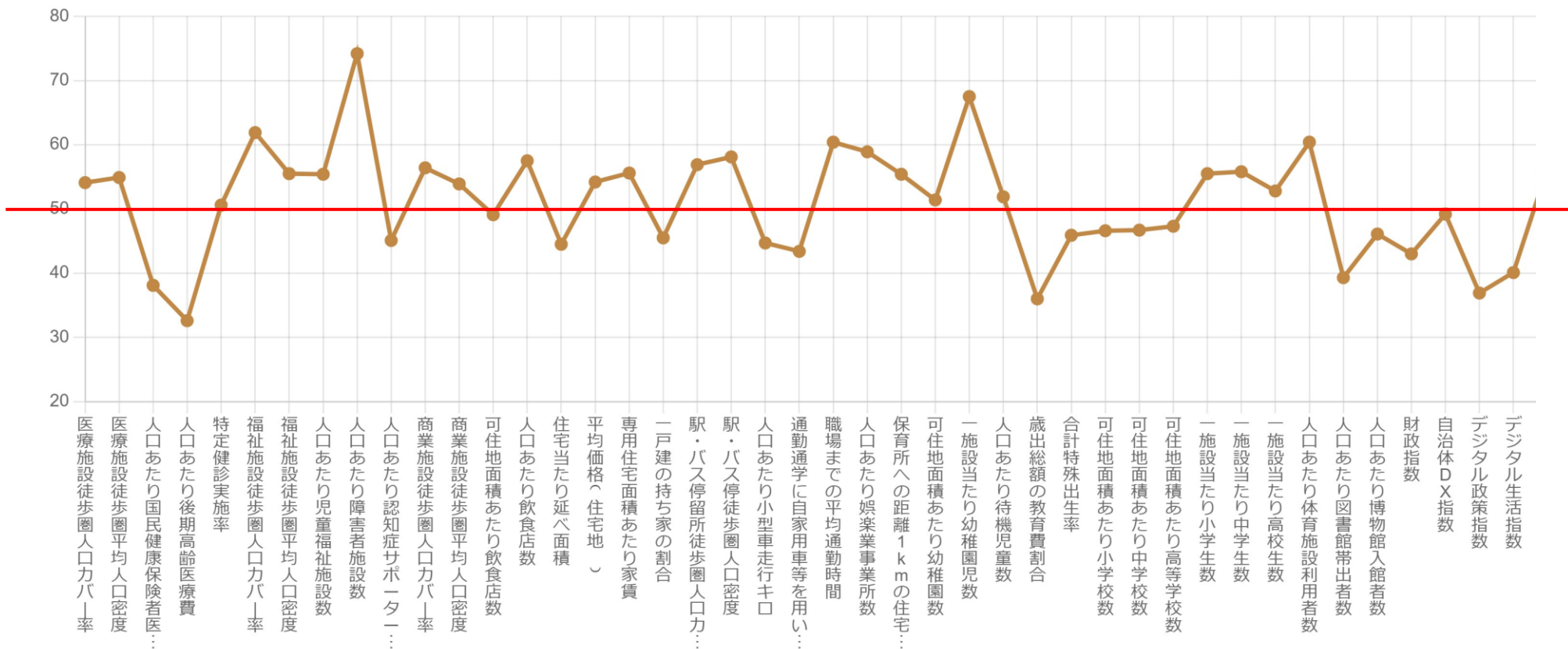
# 客観データ（生活環境①）

福祉関係で高くなっており、医療費やデジタル関連で低くなっています

## 客観データ（生活環境①）

- 人口あたり障害者施設数、一施設当たり幼稚園児数で特に高くなっています。
- 一方、人口あたり医療費、歳出総額の教育費割合、自治体DXを除くデジタル関連指数などで低くなっています。

生活環境



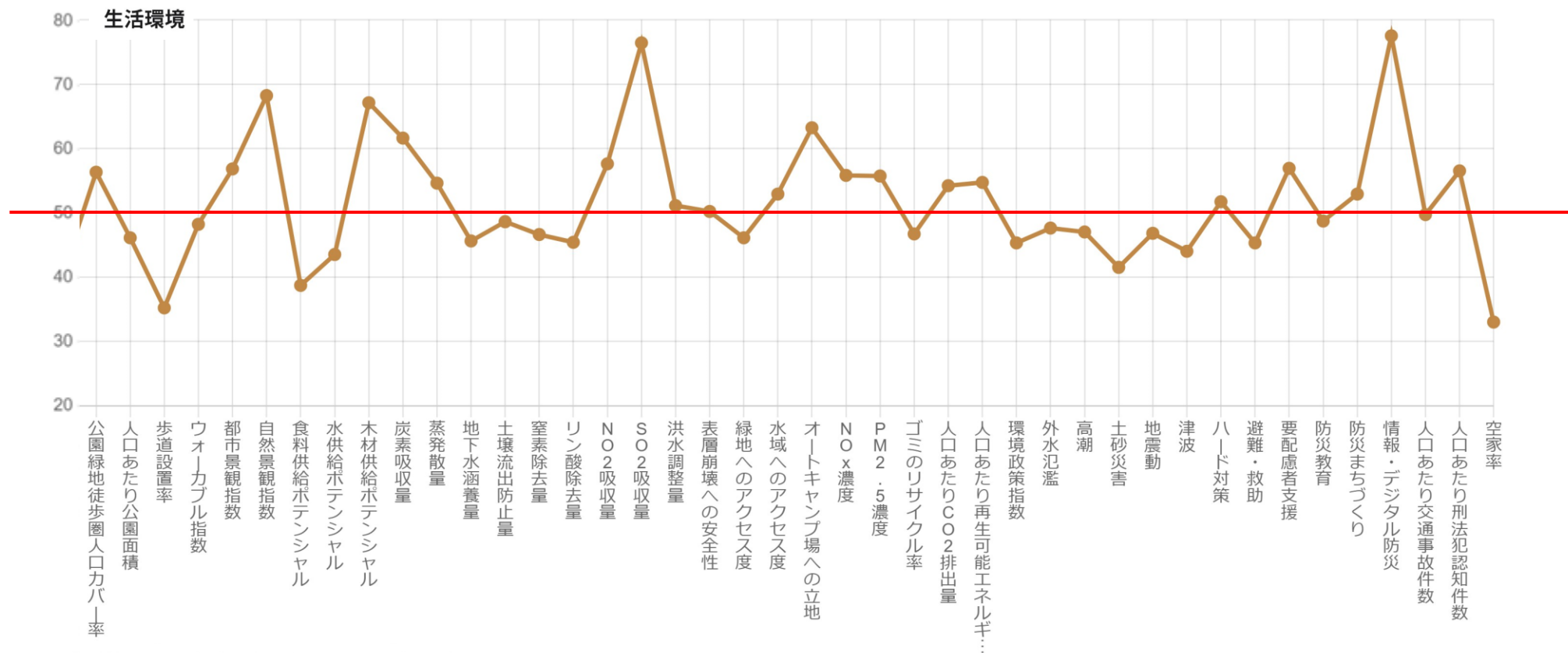
【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

## 客観データ（生活環境②）

自然景観などで高く、空き家率や歩道設置率などで低くなっています

### 客観データ（生活環境②）

- SO<sub>2</sub>（二酸化硫黄）吸収量、情報・デジタル防災、自然景観指数、木材供給ポテンシャルで特に高くなっています。
- 一方、歩道設置率、空き家率、食糧供給ポテンシャルで特に低くなっています。



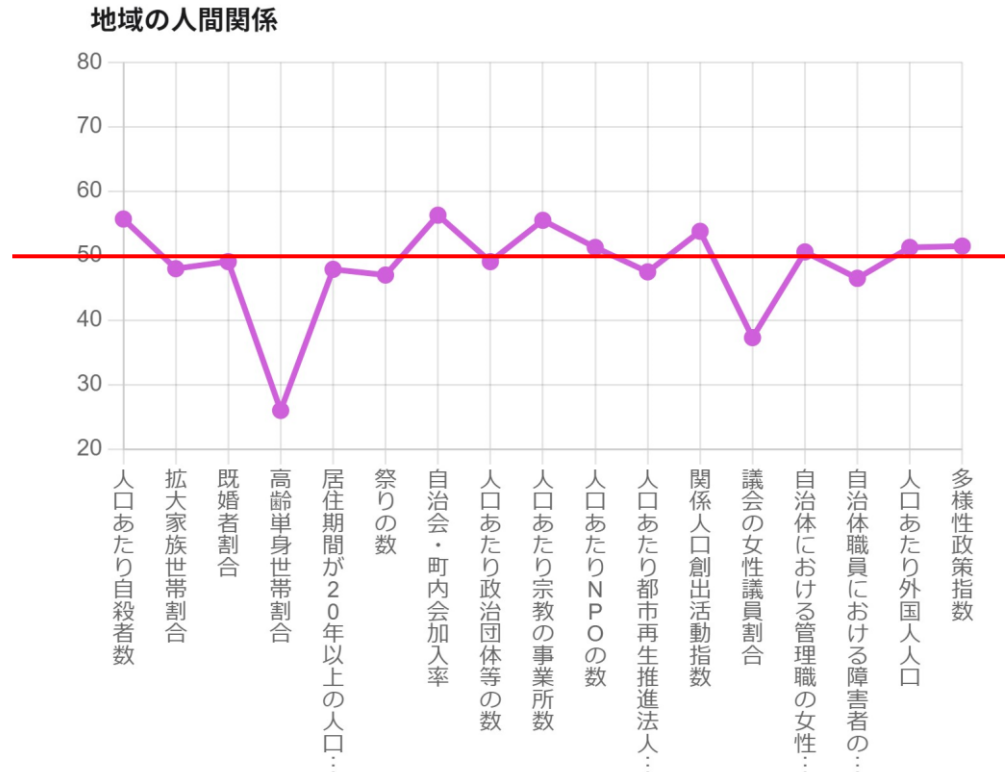
【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

## 客観データ（地域の人間関係）

高齢者単身世帯割合について、偏差値は低く（割合は高く）なっています

## 客観データ（地域の人間関係）

- 客観データ偏差値では、自治会・町内会加入率が高く、高齢者単身世帯割合が低く（つまり、割合は高く）なっています。



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

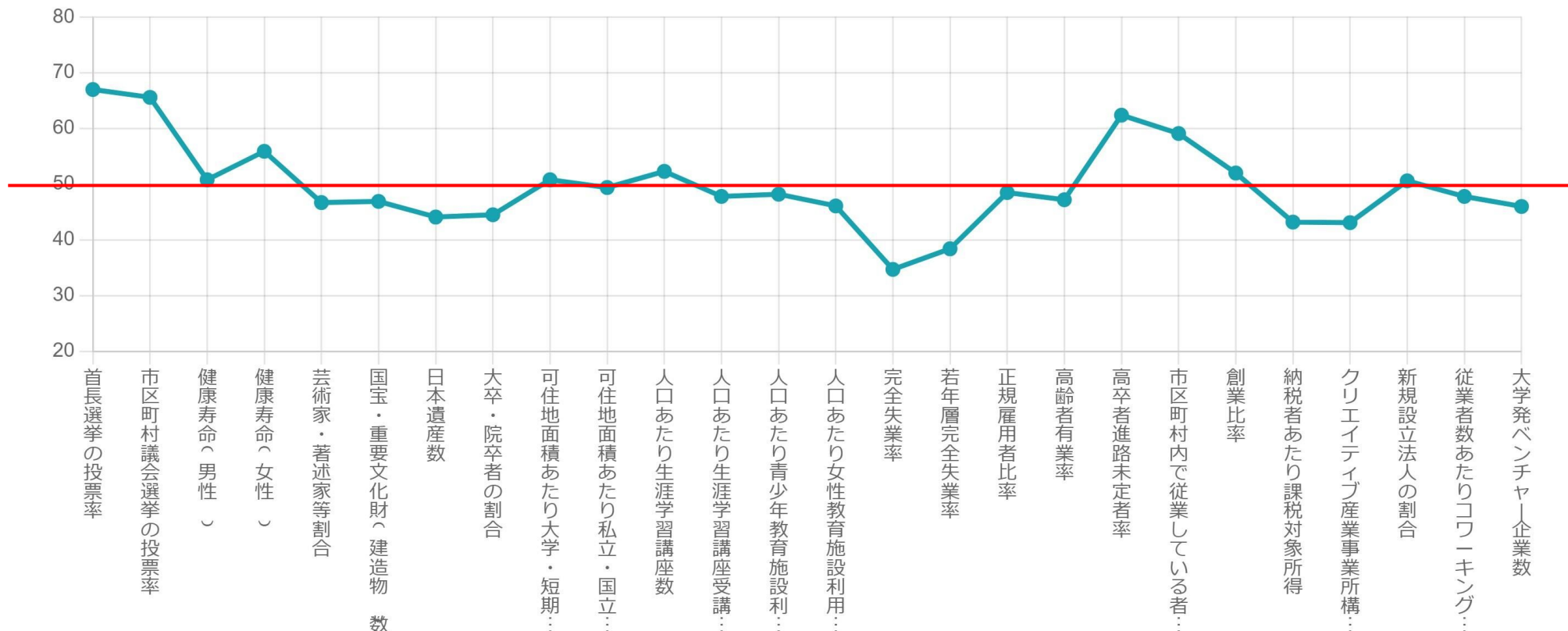
# 客観データ（自分らしい生き方）

選挙の投票率は高く、完全失業率は低く（率自体は高く）なっています

## 客観データ（自分らしい生き方）

■ 選挙の投票率は高く、完全失業率は低く（つまり、失業率自体は高く）なっています。

自分らしい生き方



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

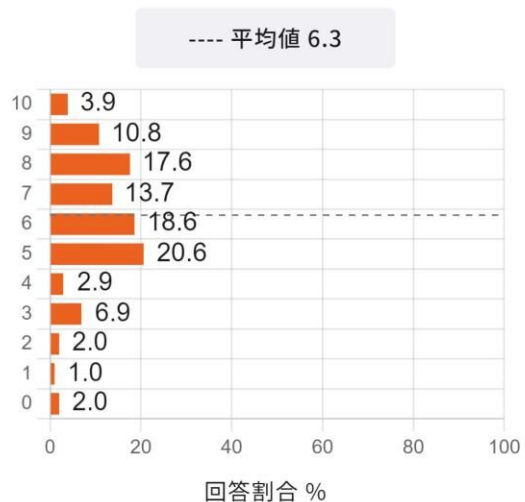
# 幸福度と町内（集落）の幸福度

幸福度、町内の幸福度ともに、5点以上が全体の8割以上となっています

## 幸福度

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？という質問に対し、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として調査した結果、  
平均値は6.3で、5点以上の回答が全体の85.2%を占めています。

幸福度

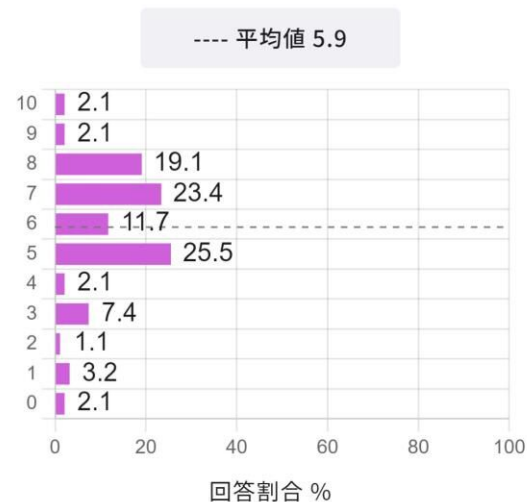


【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

## 町内（集落）の幸福度

- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？という質問に対し、  
平均値は5.9で、5～8点をつけた人が全体の79.7%となっています。

町内の幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

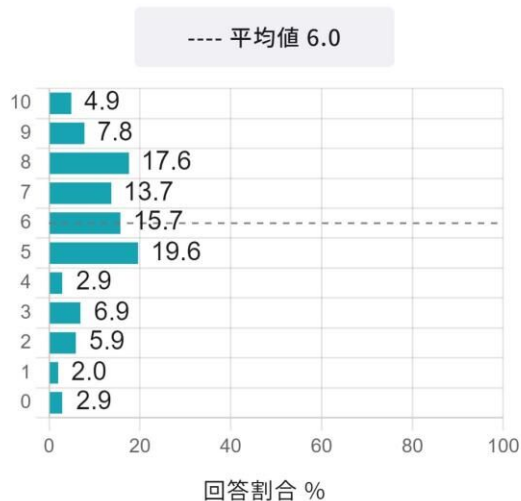
# 5年後の幸福度と現在の生活満足度

## 5年後の幸福度平均は現在より0.3ポイント低くなっています

### 5年後の幸福度

- 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか？という質問に対し、平均値は6.0で、5点以上の回答が全体の79.3%となっています。
- 現在の幸福度と比較すると、平均値でマイナス0.3ポイントとなっており、9点、6点と回答した割合が特に少なくなっています。

5年後の幸福度

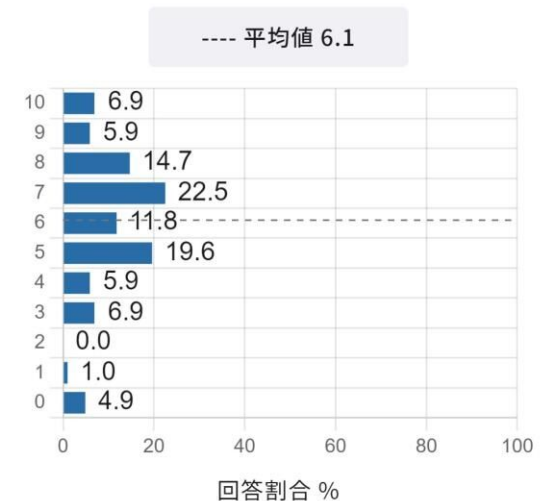


【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

### 現在の生活満足度

- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？という質問に対し、「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点として調査した結果、平均値は6.1で、5点以上の回答が全体の81.4%となっています。

生活満足度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

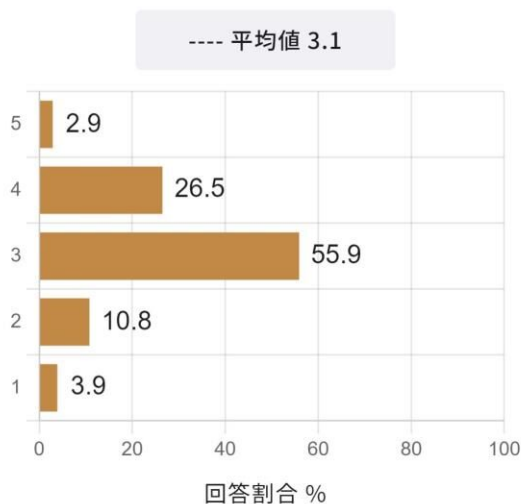
## 周りも楽しい

周りも楽しいかに対し、どちらともいえないという回答が多くなっています

### 周りも楽しい

- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思うかという質問に対し、「非常にあてはまる」=5、「ある程度あてはまる」=4、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=2、「全くあてはまらない」=1として調査した結果、  
平均値は3.1で、3が55.9%と最も多く、次いで4が26.5%と、この2つで8割を超えています。

#### 周りも楽しい



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査